顧問　大隈重信　　會長　島田三郎
同　森村市左衛門　　副會長　安部磯雄

# 廓清

（大正四年四月十五日發行）
（毎月一回十五日發行）

第五巻第四號

■廓清時言……伊藤江南
□總選擧の結果と我等の任務……安部磯雄
■哲學心理學の上から……福來友吉
□公娼文學より私娼文學へ……幸田露伴
■熱血紅涙……會員の聲
□御大典と京都の風敎……原田助
■農村の荒蕪と墮落女の硏究……曾田作
□醜業公認の謬制……上杉愼吉
■天皷の響き……會員の聲
□事業上の一夫一婦主義……堀越善重郎
■暴戻なる川崎及中野警察……江南
□家庭幸福の泉源……山室軍平
■春の家……大石枕月
□宮崎縣の廢娼建議……西内天行
■少年の敎育及意志の訓練（英文）……シールド

東京　廓清會本部發行

# 健康上の二大要務！

必ず朝と晩と食後とに

ライオン齒磨で口を淨める事。

必ず入浴と洗面とに

ライオン化粧石鹸で體を淨める事。

山室軍平先生著

# 社會廓清論

定價壹圓
本會員に限り三割引
外に郵税八錢

日本のブースとして一世の景慕する處たる我が山室軍平氏が、心血を注がれたる大著『社會廓清論』が警醒社から出版せられた。全篇を七章に分ち、第一章現存の奴隷制度、第二章娼妓の百人研究、第三章公娼廢す可し、第四章公娼廢止善後策、第五章藝妓論、第六章海外醜業婦、第七章基督教と風俗論といふ風になつて居る、四六版五百餘頁である。例によつて通俗平易で、而も犀利明快に論斷せられてある事は贅する迄もあるまい。會員諸君の一讀を是非推稱すると共に、大方に吹聽あらん事を切望する。希望者は直接本會に申込まれたい。

廓清會編

# 娼妓自由廢業案内

定價十五錢
郵税とも

娼妓の問題を卑しい事とけなして自ら高しとし、無關心の事として居る者は、未だ眞の自覺に這入つた者ではない。之我等の姉妹の死活の問題である、自分の子弟友人の大問題である。二十世紀に殘された唯一の人道上の大問題である。殊に同性の人にとりては最も重要な婦人問題であらねばならぬ。女子を男子の玩弄物視する思想は實に玆で養成せらるゝのである。新しがる婦人達が之に眼を放たないに至つては我等は何處に覺めた處があるかを疑はずには居られない。

娼妓とはどんな生活をしてゐる者であるか、悲慘な奴隷のそして醜穢な節操賣買の生活から如何にこれを救ふ可きか、我等は何故自由廢業を奬勵するか等を、本書は詳細に語つてゐる。

さけきらいになる藥

身體無害
有効保證

禁酒丸

●定價 半週分六拾錢 ●貳週分壹圓九拾錢
一週分壹圓 ●三週分貳圓八拾錢

からだに少しもがいなくどんな酒●煙草のみでもきらいになり益々壯健になること保證早くためして御らんなさい

禁煙液

たばこきらいになる藥

●定價五拾錢●壹圓●壹圓五拾錢●

●●●郵券貳錢送附あれ兩藥の説明書送る●●●

本舖 大阪靭南通二丁目 森田商店

●御送金は振替口座大阪貳二壹二六番

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 會告

## 矯風大演說會

今般、廓清會、婦人矯風會、日本禁酒會の聯合大演說會を開く、在京會員諸君は必ず知人同伴御出席相成度し。（入場無料）

▲時日　本月二十日(火曜)午後六時

▲場所　神田區美土代町　青年會館

▲辯士

島田三郎氏　山室軍平氏
安部磯雄氏　林歌子氏
矢島楫子氏　益富政助氏
安藤太郎氏

## 發行所移轉

本會機關誌『廓清發行所』は従來神奈川縣川崎町に在りて不便尠からず殊に會誌の發送遲延を免れざりしが、今回愈々左の本部内に移轉したり。

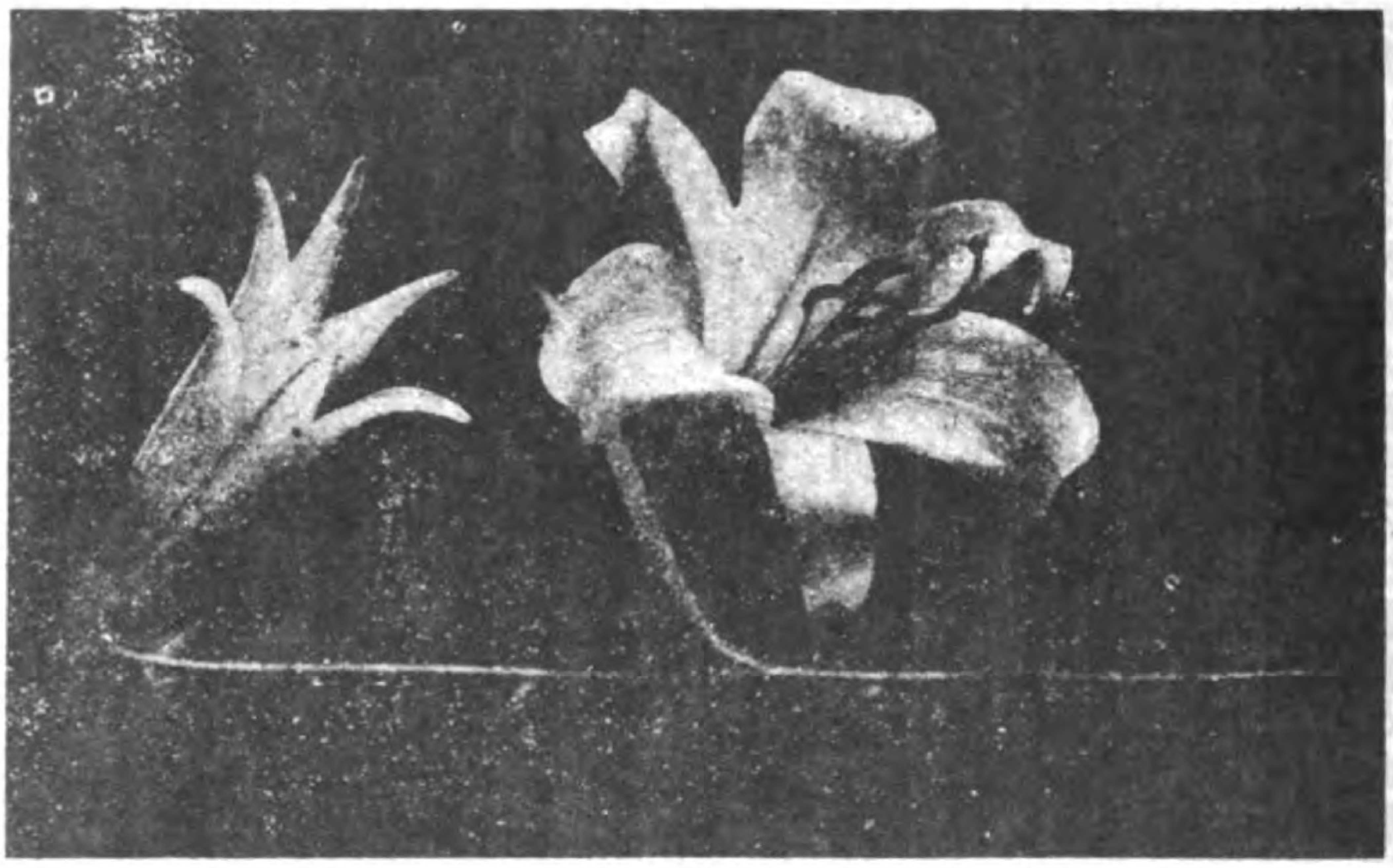
▲廓清發行所

東京市神田區美土代町
三ノ三　廓清會本部

電話本局四九四〇番
振替東京二七〇七二番

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廓清
THE PURITY
大正四年四月
第五卷 第四號



# 廓清時言

## 總選擧終る

總選擧は終れり、而して其結果は何人も豫想し得ざりし程の政局の變轉を見たり。吾人は勿論政爭に超然たるものなるが故に、これによりて何等の喜憂ある事なし。たゞ今日に於て敢て問はんとするものは、果して我等は我等の主張を理解する人格者を擧げ得たるかの一事也。

吾人は曩に婦人の選擧場裡に現はれ來りたるを一進歩としたり、然るに其の中に風俗攪亂を以て生計とする所謂女將と稱せらるゝ者、及び藝妓の甚だ多かりしは何等の陋態ぞや。而も一國の選良として議政壇上に立たんとするの士が、此れを以て得々とし、或は爲めに收監せられたる者をすら出したるが如きは、國民としての汚辱亦極まれりといふ可し。

## 大浦内相の婦人観

新聞紙の傳ふる處を眞ならしめば、大浦内相は案外分らぬ人のやう也。氏は今次の總選擧に於ける婦人の活動を以て、婦人參政權論者輩出の前提たらんとなし、英國にては斯かる婦人達の爲めに極めて手古摺り、今や惡弊百出の狀にあり、されば勿論我國にては參政權運動は之を排斥すべく、現在の婦人戸別訪問に就ても相當の取締りを講せんと謂へりといふ。戸別運動の排すべきは立憲政治の本義に於て吾人も其要を認む、然れども之れを獨り婦人に限るに於ては固陋の僻見と見るの外何等の理據ある事なし。英國にて惡弊百出せりといふも、其茲に至らしめたる責めは男子にあり。折角婦人に政談集會に列席するの自由を與へんとしつゝある現代に於て、大浦内相は滔々たる時勢の潮流に抗して、婦人を抑壓せんとするか。



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

尚本件に就て大隈首相亦内相と同意見なりと傳へたる新聞あれど、そは必ず誤聞なるべし。少くとも首相は婦人にのみ偏頗に戸別訪問を禁ずるが如き時勢に迂なるものに非ず。

## 英國宮廷の禁酒

今次の戰亂による最も偉大なる收穫は、飲酒排斥の思想也。曩に露國が禁酒令の大英斷を布きて世界の視聽を聳動して以來、佛獨に於ても禁酒の民的運動旺盛を極めつゝあるが、更に最近快心の報導は、英國の皇室に於て、國民に範を垂れさせ給はんが爲め禁酒の宣言をせさせ給ひし一事とす。自由を尊ぶ國民性として法令を以て禁酒を強制する事は、或は通過疑はしからざるに非れど、英國民の此問題に對する自覺克己は殆んど同樣の效果あらしめざれば止まざるの狀勢にありといふ。翻つて我國の現狀は如何、我國に於ては飲酒の問題どころか、更に緊急なる公娼問題すら容易に解決されず、花魁道中の何のと立騷ぎつゝあるうたてさよ。

## 布哇の日本藝妓禁止

昨春、吾人は大正博覽會に於ける藝妓の演藝を以て、今後の各地の小博覽會に惡影響を與へんと預言し置きたるに、果せる哉昨夏の大阪納涼博を始めとし、目下の廣島共進會に至る迄各府縣に催されたる幾多の博覽會が此惡風を模倣し、必ず賣淫婦の技藝を公演せしめて之を呼物とし入場者を多からしめんとする醜態を演じつゝありて、要するに藝妓なる者は大小公私の集會宴席に缺ぐ可からざる大切なるものとなり今や跋扈其極に達したるに似たり。然るに布哇に於ては、今回日本藝妓を排斥するの法案議會に提出され、大多數を以て通過の形勢なりといふ。斯くの如き外電に接して尚羞恥の念なき國民は、遂に男女問題の爲めに國を危うするの機あらんを恐る。

## 最近花柳界の二現象

近來花柳界に著しき二つの現象あり、一は娼妓の慰安會の各地に起れると、他は藝妓の檢梅の各地に行はれつゝあるの事實とす。娼妓を眞に慰安せんとならば解放するより外はあらず、借金といふ恐しき鎖にて縛り上げ、無理無體に節操を蹂躪せしめて弱き彼女達の肉を啖ひ、血を啜りつゝある樓主等が、月に一回浪花節の一つも聞かしたとて、それで何の慰安ぞや。去り乍ら兎も角も矛盾したる慰安會などを開かねばならぬ世の中になりたるは、喜びならざるにもあらず。

而して他の傾向たる藝妓の檢梅問題に就きては、本會は昨年初頭、各府縣知事及警察部長に、吾人は檢梅を無效と信ず貴下は如何に考へらるゝや、有效とするならば何故公然の賣淫婦たる藝妓の檢梅をなさゞるや、若し無效とするならば速に公娼の檢梅をも廢止せよと、島田會長の名を以て警告を發したるが、それかあらぬか、近來各地に藝妓の檢梅起り、藝妓が藝術家の假面を剝がれて私娼として取扱はれんとしつゝあるは、これも喜ぶべきに似たり。吾人は所謂東京の一流の藝妓に此制を布いて、賣淫婦たる事を明白にするを得ば、以て彼等の社會的待遇を一變し、或は自働車を以て行人を脅かすの不埒は之れを去るを得んか。(江南)



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 總選擧の結果と吾人の任務

廓清會副會長
早稻田大學教授　安部磯雄

今度の總選擧の結果は實に意外であつた。之れはどういふ處に原因があるかと云へば、無論政友會が不人望であつた事と、も一つは議會の解散になつた理由たる增師問題が、假し色々の議論はあるとしても、國民の過半數は寧ろ贊成であるといふ事とが、今次の政府黨の大捷を博した原因であると思はれる。併し主なる原因は何といふても大隈伯の人氣であつて、國民が大隈伯に信賴してゐる事の深き點にあつたこと疑を容れぬ。

私も今度は地方にも度々行つて大分演說した。或る時は露骨に大隈伯の人物又は其政策などに就て辯護した事があつたが、聽衆がそれを喜んで聞いてゐるのを見ても我々は大隈伯の人氣の如何に大なるものあるかといふ事を明言し得る。

而して我々も亦伯の人物に信賴して居る一人であるばかりでなく、今度の大隈內閣位品のよい內閣はないと考へてゐる者である。之れは嘗て本誌上にもいつた通り、兎に角今の內閣員は品行といふ點に於て餘り人々の非難を受る者はない。今迄の內閣の大臣には屹度二三人位、隨分如何はしい、いや既に品行上に定評のある人達があつたのであるが、今度の內閣員にはそれがないのである。私共廓清といふ上から見て今の內閣員はほんとうに廓清せられたる內閣であるといふ事が出來る。

また金錢上から云つても、立派な大臣ばかりで、一人として金錢上に世人の疑を招いたり、社會の指彈を受ける樣な事のない人達であるのみならず、寧ろさういふ方面に就ては殆んど模範的であるといふ人々が少くない。風敎の基である文部省が、二宮尊德主義を鼓吹してゐる一木氏を戴いてゐるといふ樣な事は、之も今迄の文部大臣としては先づ著しい方であると云へる。斯樣に金錢上から云つても、品行上から云つても、私共廓清會といふそれ丈の立場からしても大に現內閣に同情をしなければならぬのである。

然るに總選擧の結果として非常な勝利を占めたといふのは或意味に於て我々廓清主義の勝利といふてもよいと思ふ。實際我々が廓清主義の上から喜ぶのは、大隈內閣が少くとも四年間は政權を握つてゐるのであるから、其間に我々が若し怠る事なくば極めてよき働きの出來る望みある事である。恐らくは今の內閣は我々の主張に最も耳を傾ける內閣たるに違ひない。であるから我々は此際出來るだけ內務省の當局者に向つて風俗の頹廢してゐる點に就て、充分の廓清を促して行くやうにせなければならぬ。

大隈伯の如きは、確に公娼制度は斷じて廢止せなければな

らぬと考へて居られる人であると私は信じてゐるから、若し輿論が充分に之を推すといふ事であるならば、今の內閣は喜んで公娼制度の全廢を敢行するに相違ないと思つてゐる。政府の當局者は輿論が助けさへするならば何事でも之れを實行するのは容易い事で、其點に於ては今の政治家は餘程立憲的になつて來た。人民の聲に耳を傾けるのは今の政治家のなさねばならぬ事である。そこで今日は輿論なるものが公娼制度を全廢するに向ひさへするなら、今の內閣は喜んで之れを實行するといふ事は我々は深く信じて疑はない

であるから要點は、私共は出來得る丈け今の廓淸主義を世の中に知らしめて、輿論を作る事である。殊に此輿論を作るといふ事になれば新聞紙の力が非常に偉大であるから、我々は大に其點に就て新聞紙の助けを借らなければならぬ。斯くの如くして我々は、出來るならば我々の目的を達し、同時に大隈內閣をして最も立派なる處の仕事をなし遂げしむるやうに助力したいものと思ふ。

此機會をはづしたならば公娼制度の廢止の如き高遠なる理想の實現は彗星の如く去つて、再現迄には多くの年數を要するであらう。私は會員諸君と共に、四ケ年の內に此問題を片づけるやうにせなければならぬといふ事を、此の意外なる總選擧の結果と共に痛切に感じたのである。願くは會員諸君は『四ケ年』といふ事を念頭に置いて、愈々奮鬪の時が來つたとして蹶起せられん事を、切望して止まぬ。

# 御大典に就て京都遊廓移轉建白書

廓淸會京都支部長
同志社大學長　原田助

謹で書を京都府知事大森鐘一閣下に呈す。閣下が夙に府下人民の利害休戚を念とし、之が向上發展に心を用ゐらるゝは生等の常に感激措く能はざる所なり。

夫れ閣下の統治の下には一千有餘年の光榮ある歴史を有し風光明媚の故を以て其の名を世界に馳する舊都を有せり、國民の風教及び健康を考慮し、國家の品位、體面を保持する點より之を觀るも、其の住民の風俗習慣は一層重大なる意義を有せずんばあらず。生等居を此の地に定むるもの微なりと雖も獨り自己一身の利害の爲めを謀るのみならず、博く天下國家の爲め、此の地の風俗習慣を顧慮する上に於て、復た閣下と憂ひを倶にする義務と責任とを有せり、是れ敢て自ら揣らず、玆に一事の急務に關し卑見を披瀝して閣下の宏量に愬へんと欲する所以なり。

事は當市の遊廓の件に屬せり。夫れ當市の遊廓は島原を除



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

きては皆悉く良民の家屋と甍を連ね、殊に其の一二個所の外は全く正業者と辨別し能はざる狀態にあるのみならず、市內往還の通路に當れり、故に平素の來往、識者の看るに忍びざる醜態を露はし、顰蹙措く能はざらしむるもの少しとせず。是れ蓋し風敎上容易ならざる問題なり。

當市は帝國大學を始め公私男女の學校所在地として實に敎育の府とも稱すべき地位にあり。天災地異起ること稀れに、閑靜にして風光に富み、空氣新鮮、用水完備し、一つとして子弟を托するに不安を懷くべきなし。然れども噫、唯一件、天下幾十萬の父兄をして危惧の念を抱かしむるものを存せり閣下請う試みに思へ。海內幾十萬の父兄母姉は貴重なる子弟を當市に托し、彼等は子弟の誘惑に陷るなきやを恐れ、小心翼々、夙夜當市の空を望んで彼等の過ちなからん事を祈り生等彼等の衷情を偲んでは側々同情に堪へざる也。而して少年子弟の最も陷り易き誘惑地を市の中心、然も子弟の近づくに最も便なる個所に有せる生等は彼等父兄に對し羞耻慚愧の感禁し能はざるものあり。況んや路傍相傳ふるが如くんば、當市の少年子弟の風紀必ずしも安んずべからざるものあるをや。此れ少年子弟の薄志弱行の罪として或は之を責むべきも然れども已むを得ずして淫靡卑猥の風姿嬌聲を見聞し、不知不識岐路に迷ふもの亦尠なからざるべし。是れ蓋し當市にある識者の忽にすべからざる責任なり。之れ實に父兄の憂ひなるのみならず、又實に天下の憂ひなり。思ふて此に至れば生等一日も之を等閑に附して安居すべからざるなり。

更らに近時陸續我國に渡來する觀光の外客にして當市に遊ばざるもの極めて稀れ也。然るに彼等の來るや、射利の外念なき案內業者の輩は、必らず先づ示すに此等狹斜の地を以てし、彼等に媚びて其の好奇心を滿足せしめんとするものなきに非ず。且つ觀光來往、屢〻此地點を通過するの已むなきものあり。彼等は得々として此の營業の內容を外客に首肯せしめずんば止まず。夫れ外客の中には犀利の眼を以て我が國民性を研究せんと欲するもののなきにあらず。當市に來るもの千有餘年の光榮ある歷史を有する舊都を親しく觀察せんと欲するの念あるもの少しとせんや。噫々生等此の言を閣下に奉らんとして之れを擧ぐるだに猶は冷汗の背を潤ほすを覺ふ。實に舊都の光榮を辱め、國家の面目を傷くるもの、蓋し之れより甚だしきはなし。

皇室の大典亦將に近きにあらんとす。外客の出入蓋し愈多きを加ふべし。且つ內國よりの來遊者亦夥しかるべく、風敎上更に考慮を要すべきの秋なり。畏くも典範を以て榮譽を賦與せられたる當市が、徒らに外形の美を整ふるに急にして、耻辱を全世界に露はす如き事あらんか誠に痛歎の至りに堪へざる所なり。

此の理由に由り、生等は疾かに遊廓を特殊の地域に移轉せしめんことを切望す。然れども是れ或は俄かに斷行し難かるべし。故に生等は先づ第一着手として、遊廓を良民の住居と區劃せしめ。貸座敷業者の取締を一層嚴にせられんことを閣下に懇請す。其の施設の詳細に至りては素より閣下の賢明なる措置に委せんのみ。

閣下幸に生等の意の在る所を諒とし、遄かに之を採納せられんことを。謹んで建白す。大正四年四月

# 宮崎縣下の公娼を廢止し私娼の嚴禁を請願する建白書

西内天行

吾が宮崎縣は今や古代埃及の如き古墳の國より一變して小なる新興國の觀を呈し、古帝洲は再變して新日洲の建設とならんとす。皇祖開祥の地は無疆に皇祖開祥の地たり。全世界のクリスチヤンが西亞の一角パレスタインの小天地を救主降誕の聖地として毎年巡禮參拜する者幾千萬人なるを知らざるが如く、日本開闢史上に於けるパレスタインは明に我が古帝洲なれば今後交通機關の完備と倶に、祖先を尚び、祖國を懷ふ愛國慨世の國民は陸續として此聖地に雲集し、巡禮參拜するもの日に月に多きを加ふべきは吾人の信じて疑はざる處なり。世界の巡禮者がパレスタインに集りて特に感ずる點は一人の賣春婦なく、世界萬國共有の聖地に恥ぢざるが如く、他日我が祖國日向も日本國民共有の聖地たり、巡禮地たるを信ずるが故に眞に皇祖發祥の聖地たるに恥ぢざる一大淨土たらしむるは刻下の最大急務に屬す。祖國日向に公娼の如き奴隷制度の存在を見るは不淨不潔、言語に絶すと謂ふべし。吾人は此際當局者が大廓淸の靈劍を揮ふて醜魔を掃蕩し『神ながらの皇祖發祥の祖國』として、大帝國民隨喜渇仰の大靈地、大道場たらしむべく回復せんことを希望す。是れ實に國民教育に取りて嘗つて十字軍が回教徒の手よりパレスタインを回復したるに勝る、大なる偉業なりと謂ふ可し。

有吉知事赴任後、一兩年を出ずして端なく大正の御代となるや、縣治に於ける實績は着々として大正新政の眞義に合し、我が古帝洲創設以來の新事績を擧げつゝあるは吾人の欣仰して慶喜措く能はざる所なり、是れ實に上に明知事あると倶に、下五十萬縣民の代表者たる選良諸君の存するありて、能く其責務を盡したる結果ならん、吾人は此の明知事閣下と縣民選良の代表機關たる縣參事會員各位とに對し、聊か丹心を披瀝して縣下の重大問題に就て建言し、大正新政の大義が些の曇りなく赫々として縣治の上に光被するに至らんを禱らざるを得ず。

積年の公娼廢止論者たる大隈伯爵の内閣の首班たるに至るや、大正新正の意義は一層の鮮明を加へ、大隈伯、森村市左衞門兩氏を顧問とし、島田三郎、安部磯雄兩氏を正副會長とせる、公娼廢止運動の中樞機關たる廓淸會幹部は、過般内務省の高等官等と一堂に會し、互に公娼廢止の件に付き赤心を披瀝して協議する處ありたりと聞く、吾人は此の一事を以てしても公娼問題に對する天下の形勢が漸く一變せんとするの兆ありと信せずんばあらず。

大正新政の第一義は明治五年政府が法令を以て禁止したる人身賣買制度を更に當時の精神を復興して改めて全廢するにあり。乃ち現在の公娼制度は一見自由契約制度の如くなるも實は明に人身賣買制度にして、明治大正兩時代に亘れる一大奴隷制度なればなり、吾人は本縣に於て率先その實行を見ん事を欲す、これ天下に範を示す所以たり、試みに左に二三の理由を開陳せんか。

## □第一理由



Digitized by Google　　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□第二理由

近時吾人が廢娼建言の急を感じたる所以は先般數名の中學生にして遊廓に出入したる故を以て退校處分を受けたりとの新聞記事を見たる時にあり、吾人は此記事を讀みて遊廓憎むべく學生憫むべしとの感を抱かざるを得ざりき。遊廓の如き風致道德上大罪惡と見なすべき魔窟を公然と公許しながら學生が誤つて此の魔窟に墮落したりとて學生のみを處分する事を知りて遊廓の全廢を絕叫し、且つ自ら先登に立ちて其運動を開始する勇なき教育者は『善き牧者は羊の爲に生命を棄つ』と大喝したる基督の不惜身命心を有せざる故也。善き牧者は群羊を陷れんとする狐狼に向つては生命を賭して戰ふものたり。社會の魔窟を討滅する事を爲さず、誤つて墮落したる學生のみを處罰するは善き牧者たる教育者の資格ある者と謂ふ可からず。吾人は善き牧者たらん事を欲し、縣下青年の指導者たらんことを期するが故に、社會の魔窟を掃蕩して世の多くの青年を救はん事を欲し、敢て此の建言を爲す所以也。

□第三理由

大正二年の調査によれば本縣には宮崎、南那珂、北諸縣、東臼杵の四郡に亙りて醜業者二十七軒を有し、公娼二百十二人、遊客二萬六千七百八十七人の多數に驚かしめ、費消金額七萬七千三百二十三圓の多大なるに驚かしむ。

若し四十四年度以降大正二年迄の三年間に亙る遊客及びその費消金額を合算せんか、遊客數六萬八千八百十六人、消費金額二十三萬四百四十四圓の驚く可き巨額となる。但し此の巨額も警察署に屆出たる形式的の物に過ず。實際は未だ〳〵巨額なるべしと信ず。一面に於ては教育勅語戊申詔書の普及に努め、忠孝兩全、勤儉自疆の鼓吹に專らなりと雖も一面には全國に五萬の公娼を有し、更に四萬の藝妓を有し、更に無數の私娼を有し、醜業淫樂の鼓吹に努むるを見る。その矛盾撞着、慷して亦慨すべきにあらずや。

□第四理由

吾人は宗教道德上に於ける夫婦問題に對しては一夫一婦主義を人倫の極致と信じ、之を鼓吹し、實行しつゝあり、青年男女間の兩性問題に對しては女子の貞潔と相俟つて男子の高潔を理想とし、之を鼓吹しつゝあり。その消費金額は資產の一部、又は勞働賃銀の幾部を蕩盡し去るもの、別言すれば自家心身の滅亡と一家一國の滅亡とを助長する惡事醜行を爲す者なり、當局者が斯の如き大罪惡の淵源たる遊廓の存在を公許するは、明治大正の文明に反す、吾人は公娼の存在を以て明治と讚美する能はず、亦大正と謳歌する能はず。

何となれば不明不正之より大なる公許物は天下に是れあらざるが故なり。吾人は政府當局者及び縣當局者が速に之を撲滅し、掃蕩し、大正新政の大義を社會の表裏に徹底せしめんことを願はざるを得ず、これ政府當局者の唱導する地方改良の趣旨を完ふするものたり、地方改良とは單に行政事務の改善といふ如き、狹義に解す可きにあらず、地方各郡に於ける魔窟を全廢し、遊惰淫逸の風を矯め、勤儉治產の風を定むるがごとき、實に活きたる地方改良の事業たり、吾人は此點に於て特に當局者諸賢の清鑑を仰ぎ明斷決行を禱る。

□第五理由

縣内四郡に公娼の存するが爲に縣下全體の私娼熱を高むると亦尠しとせず、公娼を置かば私娼衰ふべしといふが如きは



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

事實の眞相を知らざる抽象論なり、群馬縣の如き十數年前公娼を全廢したる處なるが、而も私娼の甚だ振はざる處なり、公娼の存在は醜業の惡模範となり、私娼熱を煽ると甚しき物なり、公娼を全廢しなば私娼衰ふ、現に本縣の如き公娼設置以前にありては、私娼皆無なりしにあらずや。然るに公娼設置せられて以來、私娼旺盛となれる事實は壯丁の花柳病調査に於いて明かに知るを得べし。大正二年度に於ける調査によれば壯丁總數四千八百〇四人に對し、西臼杵郡の不明を除き花柳病者百七十四人となる、三年以前の四十四年度は公娼の數も多からざるが故に、各郡を通じて八十九名の花柳病者に過ぎず、然るに大正元年には御大喪中なりしに拘らず、公娼に於て四十四年の百六十九名より百九十名に進み、壯丁の花柳病者に於て百三十四名となり遂に二年度に至りては公娼の總數二百十二名に進むと共に壯丁花柳病に於て西臼杵を除き百七十五人となる、これ縣內の一部に公娼を增加すれば縣下全體に亙りて私娼を增加するを明示する反證たり、日薩兩地方壯丁の花柳病者は日本第一に多數なりと聞く。是れ近來猛烈に私娼の增大したる立證也。若し速かに縣當局者に於て斷乎として公娼を全廢し、私娼の上に風俗警察の威力を加へなば壯丁三等症の禍根を斷つ豈必ずしも至難の事とせんや。

## □第六理由

今や本縣は明知事及び參與選良諸氏の戮力經營に依り交通の便大に開け、生產の業大に勃興せんとするの光歷然たり。これ最も慶すべき光明的半面なり、されど暗黑的半面に至りては各町村の旅客、飲食店、居酒屋等に於て私娼の跋扈公娼の增加と共に甚しく風紀紊れ花柳病漸く猖んならんとす。然れ共當局は或は曰はん、酌婦仲居類似の女中及藝妓の檢黴を勵行し、疾患ある者は嚴に之を處分し、疾患を掩蔽したる醫師は嚴刑に處する事とせば幾分か私娼によれる花柳病の傳播を豫防する事を得べしと。而も吾人を以て見れば檢黴の效力なるものに信を措かず、加ふるに之れあるが故に安全に接し得べしとの念を與へるの恐れあり、況んや人權を蹂躪するの最も甚しきものなるに於てをや、乍併尙ほ公娼を許可して且つ私娼を放任するに勝るや萬々なり、たゞ吾人は寧ろ警察官の氣品を高め往々にして飲食業者と私交を結ばんとする傾向ある駐在巡査の如きは此際一層嚴に戒飭督勵し、併せて一般警察官の風紀を嚴正にし、大に其威信を發揮すると共に風俗取締の覊絆たり、守護神たらしむる活方法を講じ、賣淫の罪惡なる事を道德と法律と一致して之を示しなば或は私娼の絕滅は困難なりとするも以て風紀を振肅するを得べきや必せり、先づ公娼を廢止せよ、而して警察官の風俗取締を嚴にせよ、これ軈て私娼掃滅の前提たらん。

## □第七理由

最後に注意すべき問題あり。世には公私兩娼の存在に對して孝悌の一端を實行する者として同情を表する識者なきに非ず、然れ共貞潔節操は女子の生命たり、人は自己の生命を奪はんとする者に死力を盡して抗爭するの自由權あり、いかに孝悌の爲とはいへ、女子の生命たる婦道を破壞して顧ざる如きはこれ女子の人格を無視したる德川時代の舊道德觀なり。

苟くも女子を人格として取扱ふ近代の新道德觀よりすれば孝悌の美名の下に女子の貞潔節操を奪ひ去るが如きは孝悌の美德をして大罪惡の施行力に害用するものにして實に驚怖戰慄すべき惡德行爲あり。吾人は世の無教育なる父兄に向つて此の憎むべき惡德行爲を嚴禁するの必要を感ず、若し本縣當局者中に野中兼山の如き國士あらんか、直ちに縣會を以て嚴禁すべきを疑はず、冀くは當局者諸賢が是等の倫理問題に對し、根本的識見を確立せしめ、醜業問題の根本的解決に向つて一刀兩斷の明裁を仰がんとする者也。



Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 娼婦公認制度の誤謬（二）

法學博士 上杉愼吉

## □娼家制に免れ難き少女賣買

娼婦に伴ふ自然の惡弊は、少女賣買なり。『娼家を公許する國家は、少女賣買を禁ずと云ふと雖も、其は虚言なり。』娼婦あれば、必ず少女賣買行はる。少女賣買は、文明國の眞ん中に於て、盛んに行はるゝ所なり。『世話人、男女の代理人、運送人は、恰も貨物を取扱ふが如く、冷血に此の業を營むなり身元證書は僞造せられ、各箇貨物の品質を詳しく記載し、運送人の手を經て、買手に引渡さる。其の價額は、貨物の如く其の品質に依り異り、各地の嗜好、要求に從ひ、輸出入せらる』。ヨエストなる者の旅行記『西比利亞を周遊して日本より獨逸へ』に於て、少女賣買について記せり。『之れ等少女の取る所の道は、全く正確に追隨することを得。漢堡に於て船積せられ、南米に送らる。バビア、リオ、デ、ジネイロは其の四分の一を受け、大部分はモンテヴイデオ、ブエノスアイレスに至る。他の一方には、英國を越えて北米に至る者あり、キユバ、西印度、墨士其に及ぶ。獨逸少女は多數に、アルプス山を越えて、伊太利に輸出せられ、更に南してアレキサンドリア、蘇士、孟買、カルカツタ、新嘉坡より香港、上海に達す。日本には餘り賣れ行き良からず。何んとなれば、日本土着の少女、既に美にして價廉なればなり。露西亞へは、遠く西比利亞の内地に及べり。此の巨大なる貿易は、完全なる組織を有し、代理人あり、仲立人あり』と。人身を貨物として賣買するは、文明の進歩と共に消滅したるは、人の信ずる所なり。最も人道の觀念に反す。然るに少女賣買の、此の如く盛んに行はるゝを聞くは何ぞや。之れ現代文明の狀態なり然れども娼婦を認めて、少女賣買を禁ずるを得ず。娼婦を廢せずんば、之れを止むること能はず。

## □娼家制度の百弊

娼婦の絕對的撲滅を主張するは、或は實際に遠き、迂濶なる空論なりとせらるゝならん。然れども、前にも云へるが如く、人道に反して、尙ほ實際に適切なるは、あり得べからざる所なり。予は、主義として國家は娼婦を認めざるを以て、制度の基礎とすべきことを主張す。而して、此の罪惡に對して、撲滅取締の方法を講ずべきなり。今の諸國に行はるゝ制度は之れを止むを得ずとして公認するを主義とす。之れ、根柢より誤謬なり。矛盾なり。故に如何なる取締制限の制度を



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

設くと雖も、其の目的を達することを得ず。道徳益々頽敗し娼婦益々増加せんとす。我が國に主として行はるゝ娼家組織は、娼婦制度の最惡なるものなり。予は玆に娼婦制度の得失を詳細に述べんとするに非るが故に、簡單に娼家制度の弊害を約言すれば、娼婦の存在は、一般に、國家は娼婦を保護しそれに特別の便利を與ふると云ふ信念を生じ、國家は花柳病の危險防護の手段を講ずると云ふ確信は、男子不品行を増張せしむるのみならず、一般善良の風俗に、有害なる影響を及ぼすなり。獨逸廢娼運動の先覺者と稱せらるゝ、ギユイヨーム夫人の「若し、國家が、此不道徳を止むを得ざる災惡と宣言するならば、如何んして我々は、我々の男兒等に道徳の重んずべきを敎へんと」云へるは、至言なりと云はざるべからず。又娼家の存在は、特に少女賣買を盛ならしむ。娼家に於ける娼婦の憐れむべき再び良家の人と爲るの到底不能なる狀態は、屢々聞く所なり。一たび娼婦として、公然名を掲げらるゝ時は、道徳上永久に沈沒したる時なり。娼婦として烙印せられ、强制して身體檢査を受けしめらるゝ時は、婦人たる羞耻の心は悉く壞滅せられ、再び人類たらざるを感すと云ふ。チエネーヴに於ける第五回萬國廢娼大會の宣言に、「娼婦の强制的身體檢査は、之れに强力に依りて服從せしめらるる不幸なる者を、全然潰敗せしむる、婦人に對する、殘酷極まる形罰にして、其の最も身を持ち崩したものにも、多少尙ほ殘存する、羞耻の情を破壞するものなり。婦人は最早や人として取扱はれず、法律の保護の外に在り」と云へるは當れり。殊にかの實際的なることを掲言して、空理を主張するを嘲笑する者の主張する、花柳病防止の目的は、娼家制度に依りて毫も其の效果を擧ぐることなきは、多くの醫家の云ふ所なり。一八九二年、伯林醫學會は、娼家制度の衞生上無效にして、日に數回極めて精密なる身體檢査を行ひ、各回男子の健康をも檢査するに非れば、防止の目的少しも達せらるゝことなしと報告せり。英吉利に於て、花柳病の、娼婦身體檢査制度の存在せる間に增加し、其の廢止以後減少したるは有名なる事實なり。

　醫家の説述する所を讀むに、花柳病の害毒は眞に戰慄すべきものあり。而して、其の蔓延の盛んなる、正に人類を絶滅するの勢力たりとも云ふべしと云ふ。而して、娼婦の存在し男子の不品行を耻とするの止まざる限りは、花柳病は到底、撲滅すべからずと云へり。之れ、醫家の殆んど一致する所なり。花柳病に罹れる男子の數は、到底、之れを擧ぐることを得ず。醫家の推算を綜合すれば、內輪に見て、男子の半數は花柳病者なりと云ふ事を得べけん。此の危險なる、多數の花柳病患者は、之れを其の淸淨なる妻に傳染し、子孫に遺傳するもの、滔々として皆之れなり。然かも、尙ほ、婚姻の本義を說き、妻たり母たるの天分を云ふは、論者の云ふが如く誠に空論なるかな。此の如き汚穢なる夫の妻を傷害し、子孫を侵毒せんとするに對して、予と雖も、如何んぞ、婦人に對し、妻たるの服從貞淑を求め、母たるの天分を完うすべきことを、强ゆることを得ん。

## □婚姻を神聖純潔ならしめよ

婚姻は神聖純粋ならざるべからず。新しき生命の源泉なり若し、此の源泉、初めより汚濁せば、如何んぞ、夫婦の愛情の清澄を望むことを得ん。或は曰く、青年男子の婚姻前の行狀は、妻たる者の、少しも關する所に非ずと、されば、世は心身敗亡したる男子の、若き、健康なる、貞淑なる妻を娶るを見て、必ずしも訝まず。而して、妻の幸福と健康とを迫害して顧みず。無垢神の如き一少女の、眞愛の心を抱き、婚姻の美麗なる幸福を夢みたる者、一朝にして、汚濁の男子に會ひ、健康を害はれ、幸福を奪はれ、之れを訴ふる能はず、悶悶として、一生を送る、人生の悲慘、恐らくは之れに過ぎたるはあらざらん。

婚姻に於て、婦人の地位の正當なることを得ず、其の天分を盡くし、本性を完うすること能はざるは、大に結婚の方法動機の誤れるに依る。結婚前、夫婦の間に、不品行なる所業を敢てし、花柳病の既に汚染する所と爲りし男子の、結婚を制止する方法を採るに非されば、婚姻の純潔を維持して、婦人の不幸を救ふことを得ず。故に、予は廢娼同盟等婦人論者の主張する、結婚に方りて、男子の健康證明書を必要とする提案を、極めて正當なりと爲す。花柳病防止の目的は、之れに依りて大に達することを得べきのみならず、青年の淫風を廓清することを得べし。我が國に於て、近頃、花柳病防止の目的の爲めに、委員を置き、防止の手段を講ずと聞く。又青年の淫風は、獨り我が國のみならず、歐米諸國の皆訴ふる所にして、予の獨逸大學に學びしとき、入學の初め、獨逸全大學生に對する、花柳病の恐るべきを云へる戒告書を配附せられたるに、驚きたることあり。就て聞けるに、獨逸に於ける花柳病者の約四分の一は、學生なりと云ふ。我が國に於ても近時頻りに、青年の風儀の頽敗を聞く、之れを矯正するに最も適切なる方法は、委員會に非ず、戒告に非ず、小説の禁止に非ず、講演に非ず、結婚の一條件として、健康證書を必要とするに在りと信ず。ドレスデン廢娼同盟の會長、シエヴエン夫人は、少くとも醫師に、關係者、例へば新婦の父母に夫たるべき者の健康狀態を、告知することを許すを必要とすと云へり。醫師が男子の健康狀態、婚姻に適せずと思爲し、勸告する所あるも、男子の良心之れに從ふ程に、高尚ならざる場合に、醫師をして尙ほ祕密の義務を守り、此の危險の人物を放任せざるべからざらしむるは、決して適當なることに非ず。其の他廢娼同盟の主張に屬する、他の傳染病に於けるが如く、醫師に花柳病の屆出の義務を負はしむべし、花柳病を傳染したる男子を處罰すべしと云ふが如きは、或は實行の如何を危ぶむと雖も、主旨に於ては皆正當なる主張たりと云ふべし。

## □現今の結婚條件は終身賣買

凡そ其の初め淸からざれば、水流の濁らざるを求むべからず。不品行なる生活を送りし男子、花柳病に罹れる男子の、

結婚するは、之れを制止せざるべからず。然れども、今日諸國に於て、結婚の方法、動機、多くは皆正當純粹ならざるを見るは、婦人の婚姻に於ける不幸の主なる原由たらずんばあらざるなり。其の著しきは、財産を目的とする結婚なり。結婚は純粹眞正に、愛情の結合ならざるべからず。然らざれば夫唱婦和、琴瑟和合して、圓滿なる一體を成し、婦人の天分を完うせしむるは、之れを望むことを得ざるは、云ふまでもなし。予は一派の偏僻なる人士の如く、金錢を賤視せず。財産の、又人格を飾り、志操を高うする所以なるを知る。財産を有するも亦、眞愛を惹起するの一要素たらん。然れども、愛情の有無は、之れを措て問はず。獨り金錢の多寡を眼中に置き、財産をのみ見て、結婚せんとするは、全然非なり。自ら有する人類たる至高の榮譽を害ふものなり。歐羅巴に於て伯爵の家なれば、二百萬圓以下の財産家の娘では不足なり、否三百萬圓なれば好しと云ふが如きは、常に聞く所にして、人の名けて結婚投機、結婚取引所と云ひしは、形容し得て妙と云ふべし。娘の若きも、老いたるも、圓きも、長きも、白きも、赤きも頓着なし。金錢さへ多ければ可なりとし、財産家の娘も亦、爵位階級を見て、其の男子の老いたると、花柳病者なると、性格下劣なるとを問はず。此の如きもの、一般の風を成し、財産幾萬圓の娘と結婚したしなど云ふ新聞廣告は日々無數に見らるゝなり。我が國にも、金錢を目的として結婚する者ありや否やを知らずと雖も、若し、此の如くなれば、如何んぞ、之れに向て夫婦互に人格を敬重して、其の天分を遂ぐべきを求むることを得ん。此の如きは婚姻に非ず、賣買なり。ベエベルが『刑法は淫事の媒介を重刑を以て罰せり、而して終身の賣淫には、干渉せず』と云へるは、激語と雖も之れを承認せざるべからざるを悲しむ。

## □如何に正しく結婚すべきか

財産結婚と相近きものは、男女其の性格を究めずして、唯だ其の人の社會上の地位を見て、結婚することなり。彼れは陸軍大尉なり、彼女は哲學博士の娘なり。之れだけにて婚約成立す。夫婦互に相識らず、況んや、何の愛情の、其の間に成立するものあらん。『愛情は時を經るに從て發生す。』『追追に馴れ合ふものなり』と云ふ事實は、誠に一の慰藉とするに足れども、愛情を基とせざる結婚を辯護するに足らざるなり。佛蘭西に於ては、中等以上の社會には良家の女は、男子と顏を合はす機會は更になく、兩親の定むる所に從て、結婚するを、良風と爲すと云ふ。我が國に於ては、昔より、之れを以て正道と爲せり。されば、我が國の識者、此の點について得失を考慮したる老成人多からんと信ず。實際に於て、かゝる結婚法を、間違ひの少きものとするが、一般の考ならんと想像す。然れども予をして理屈一天張りに主張せしむれば、顏さへ能く知らず、話もしたることなき二人をして、突然合巹の夜より夫婦の如かれと云ふは、人情理性を無視したる話なり。

然れども、今日青年の間に淫風甚だ盛んにして、一時の感



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

情に驅られ、前後の思慮なく、輕々に結婚して、悔を後に殘すを見れば、寧ろ間違ひの少き方法を取るべしと爲すべし。婚姻を輕視するは、同一にして、弊害流毒の更に恐るべきものあればなり。又容貌顏色に依りて結婚するは、婦人を以て快樂の手段と爲すもの、人格を蔑視するは、卽はち一なり又斷じて排斥せざるべからず。靑年の間に、男女の眞愛の意義通徹せず、情感を弄びて、行を紊りにするの風習の盛なるは、東西憂を一にする所なり。近世文明社會の生活は、淫靡の生活にして、快樂の機關悉く具はる。酒店あり、寄席あり、娼家あり、小說、新聞、雜誌、繪畫、盛んに情感を刺擊す。靑年の滔々として墮落するは當然なり。今、淫靡墮落の社會の有樣は、一々之れを描出するを避く。國際廢娼同盟伯林支部長、アナア、パブリッツの云へるが如く、警察は嚴重に、醜猥なる小說、芝居等、一切の刺擊を極力壓抑し、靑年の誘惑せられて、墮落するを防止せんことを、希望せざるを得ず。

## 廓淸會評議員會

三月十三日午後二時より、本部樓上に於て理事會及評議員會を開く、安部副會長議長席に就き、益富理事の事業報告、山本理事の會計報告ありて、西村理事より洲崎事件の報告、山室評議員より川崎事件の報告ありて協議に入り、川崎事件の善後策、東京府參事會の私娼公認問題、大場博士の幼年者保護案、東京支部の發會、發行所移轉、地方開拓策、學生廓淸會、トラクト運動等につき討議をなし、五時半晩餐會に移り、歡談の裡に六時散會した。當日は降雪霏々として寒氣凛烈なるもありしに關らず熱心なる集會を見たり。

矢島楫子氏　安部磯雄氏　西村勘之助氏
高島米峯氏　山室軍平氏　山田彌十郎氏
三並良氏　小松武治氏　山本邦之助氏
松宮彌平氏　益富政助氏　伊藤富士雄氏
驅島四郎氏

尙内ケ崎作三郎氏、角谷和市氏の二氏は時間の都合ありて閉會前匆々來會、當日の議題につき益富理事と擬議意見を述べて引取られた。

## 『廓淸』發行所移轉

從來『廓淸』の發行所は、保證金の關係上神奈川縣川崎町にありて、不便尠からざりしが、今回森村顧問の御同情により、千圓を得て本部内に本日より移轉した。因に從來神奈川縣で納めて居つた三百圓の保證金は、矢島副會長の葬式金として用意せられてあつたものであつた。以て矢島先生の本會に對する御熱心を想像する事が出來る。森村矢島兩先生の御同情につき會員諸君の御記憶を願ふ。

## 花魁道中禁止請願

吉原遊廓にては又々花魁道中をなす由につき本會に於ては直に島田會長の名を以て禁止請願書を發し置きたるが尙ほ警視廳と交渉中詳細は次號

## 婦人矯風會大會

婦人矯風會の第二十三回大會が、京都に於て本月一日より三日間に亙つて非常に盛んに催された。同會が特に本年度の大會を同地に選んだのは、今秋御大典迄に大活動を起して同地の廓淸を圖らんが爲めに外ならぬ。吾人は此集會の盛大であつた事は滿腔の喜びを表し、且つ愈々提携して社會と人道との爲めに盡さん事を祈つて止まぬ。

## 投書寄稿歡迎

男女問題、公娼私娼問題、矯風美談逸事何にても可なり、會員諸君の投書寄稿を求む、紙面の許す限り掲載して之によりて敎へられ、或は研究調査の材料となり或はお互の參考激勵に資したいと思ふ。奮つて御惠投を乞ふ。

# 公娼文學より私娼文學へ

文學博士　幸田露伴

## □隔離主義の功と過

公娼は之れを個人の立場から論ずると、一點の疑義もない明々白地の問題である、個人の權利とか個人の價値とかいふ上から云ふならば、公娼の存在は一も二もなく否定しなければならぬ。たゞそれが社會全體として見た時に如何であるかといふ事が、始めて問題となるのである。世には之れを公衆衛生の上から見て、其の完全を期するには公娼制度でなくてはならぬとする論者があるが、如斯は甚だ見解の狹い議論であつて、衛生の一點のみで決して斯樣な施設を許す譯には行かぬ。私は寧ろ衛生といふ方面から見ては之れを重しとしないものである。公娼制度の目的は究竟隔離といふ事に外ならぬ。傳染病に對する避病院の組織と全く同樣で、徳川氏が公娼制度を布いた所以も實に市内の空氣を清涼ならしめる爲めであつた。笑婦が隨所にあるといふ事は風儀を亂す基である、一つ處に束ねて隔離して良民との交通を斷つ事にしなくてはならぬといふにあつた。私は此政策は強ち誤つた政策とは信じない、當時としては止むを得ない。嘗て『一克の人』の中に書いたのは其意味である。たゞ斯くの如き政策を執る以上は紀綱は常に非常に緊張してゐなければならぬ、若し少しでも間隙の乘ずべきものがあれば、濁流は忽ち堤を決した如き勢を以て奔逸するであらう。從つて此政策は頗る至難の事といふことは云へる。

それでは其結果はどうであつたかといふに、京、大阪といふと隨分賣笑婦が多くて、市内何處へ行つても彼等の姿を見たのであるが、江戸には殆んどそれがなかつた。殊に商業の中心地などは京阪の混濁に反して江戸は清澄な空氣に充ちてゐた。それは功の方面であるが、過の方には又中々容易ならぬ風潮を起すに至つた。即ち公娼を結束せしめた結果といふものは公娼が次第に洗練されて、高尾、薄雲、吉野なんどゝいふ所謂名妓が輩出して、一種の大なる權威となつた。眞に傾國傾城で、一顰一笑が社會に動搖を與へんとするの恐るべき變態を呈して來た。男子と生れて彼女の一顧を得るならば榮譽此上もないとするやうな事になつて來た。金のある者は此處で全盛を衒ふといふのが、虚榮には相違ないが此時代の趣味の鏡にかけて高級なものとするに至つたのである。

## □趣味の變遷と娼婦の形式

斯樣になつて來れば最早當初の隔離の目的は破壞されて、却つて茲が風紀頽廢の源泉となるのは申す迄もない。時代の



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

姿を寫す文學はどうであつたか、西鶴の尤を始めとして何れか公娼文學ならざるといふ有樣である。世間の趣味が公娼に集つてゐるから文學が努めてそれを覗つて毫も恥としなかつた。かうした傾向が維新の頃迄續いたから、あの謹厚な三條公さへ遊里に出入された。後藤象二郎等の維新の傑物は皆平氣で娼婦に戯れ、得々として豪遊を試みて居つた。

然るに文物制度の一新と共に、時代の趣味はいつか公娼を去つてしまつた。吉原で樣々な計劃をするのは實は趣味の去つた現實暴露の悲哀とでもいふべきものである。二十年間もやらなかつた花魁道中をやつて、昔の全盛を偲ばしめて景氣の挽回を謀らうとする中にも、昔のやうに多勢の花魁が道中するのではなくて、たつた一人が禿を伴れて八文字を踏むといふのであるから、もうそこに深い暗い時代の影がさしてゐて、昔を偲ばうとして却つて悲哀を暴露してゐるやうな次第である。而して之れが反面に公娼の衰運と反比例して、甚だ困つたものが勃興して來た、それは何であるか、曰く藝妓の出現それである。

明治も中年頃迄は、書肆の金港堂が教科書編纂の時など遊廓に招待した程であつたが、今日は左樣な事をする者があつたとしても、それは歡待と解されずして寧ろ侮辱と感ぜられる程に進んでゐる。然るに其反面に實は藝妓なる私娼が顯はれて、公娼の全盛を奪つてゐるのであるから、決して早計に公娼の沒落を喜んで居られないのである。今日の藝妓の跋扈は讚歎す可き程であつて、男子といふ男子が彼等の前に禮拜跪座せんばかりの狀態にある。今日に於ては藝妓なるものは羨望の的である、婀娜たる容姿、馥郁たる粉裝は男子のみかは女子迄が喝仰してゐるのである。殊に困つた事は、今日上流の令夫人なる者に藝妓の多い事である。うつかり藝妓の攻擊をしてゐると飛んだ失態を演ずる事がある。時代の趣味は全く公娼から藝妓に移つて了つた。大正博覽會に藝妓の出演する如きは社會的良心の存在を疑はなくてはならぬ事件であり、新聞紙などは筆を揃へて大に論難しなければならぬ筈であるのに、却つて花と稱へ美と讚して隨喜の淚をこぼし、自分には金がないから何かの機會を捕へては藝妓の御馳走にあづからうといふ樣な、品性の下劣な記者達の多いのは、歎いても猶餘りある事ではあるまいか。

## □道德と趣味との間に線を引け

私の考へでは、此問題は道德と趣味とを區分する事が必要であるやうに思ふ。今日に於ては藝術を鑑賞するとか其他の興味と、道德とが渾然として居つて、假へば藝妓の技藝を愛するとか、杯盤の間に彼等と談笑するの興味とかいふものが他の不道德な事と膠着して居つて、二にして一、一にして二と云つたやうな狀態にある。之れは是非とも趣味は趣味、道德は道德と其間に線を劃して判然區分しなくてはならぬと思ふ。さうでないから、女郎買に行くのは不道德とする者も、尚且つ藝妓買は趣味だと稱する彼等に遁辭を與へ、恥を恥とせず不道德を敢てせしむるのである。

も一つは此種の風紀を亂す機關の相互の聯絡を斷つて、孤立無力のものたらしむる事である。假へば藝妓屋があつても待合と聯絡を斷てば待合は淸いものとなるか、然らざれば滅亡に陷らざるを得ない、又俳優なるものは何時の世にも風俗攪亂者であるから、之等も其脈絡を斷ち、卽ち待合‖藝妓‖俳優‖遊廓、といふ風な聯絡を斷ち切つてしまふ。そして臺灣や滿洲に行はれる退去處分を內地に適用して、各府縣に於ける攪亂者に之れを應用する事にしたらばと思ふ。

## □日本の音樂には不道德の響あり

一體德川の藝術は平民的に發達した藝術として誠に喜ぶべく尊重すべきものであるが、悲しい哉悉く醜穢な公娼と結び着いてゐる、公娼の文學であり、公娼の演劇であり、公娼の繪畫であり、公娼の音樂である。浮世繪の如きは狩野一派のやうな支那の摸倣でなく、我國に於て發達した立派なもので、外國人などに非常に珍重がられてゐるが、それも公娼の繪畫である。又ケーベル教授が嘗て『日本の音樂は不道德の響きがする』と云つたが、實は其箏、其音樂なるものは公娼と結び着いた不貞潔なものなのである。

私は職掌上、小說家であるから人情を基礎として社會の萬般を視るから、諸君と立論の違ふものがあるかも知れぬが其點は之を諒として貰はなくてはならぬ。私達の觀方を以て云へば、惡いものであつても存在してゐる以上は、存在するだけの理由があるに違ひない、人間にさうした弱點があるからである。惡い事であつても人間がそれを好むからである。だから其制度なり社會の習慣なりが、惡い事を惡い事と思ふ樣に出來て居るかどうかといふ事が問題であると思ふ。若し不道德な事を不道德と思はぬやうに出來てゐるならば、我々と云へども許すべきではない。

然るに之れを文學の方面から觀察して見てどうであるかといふに、德川時代の公娼文學から、今日は私娼文學が起つて來た。最早公娼を文學が題材とするやうな事は殆んどなくなつたが、藝妓や其他の私娼は必ず其作品中に顯はれて來る。文學は勿論社會の反映であるから、之れを文學者の罪に歸する譯には行かないが、一般に笑婦の事を描き、頽廢的氣分を以て『欺かざる自己』『僞らざる現實』であるといふやうな事を云つて濟ましてゐる。今の調子で行くならば、德川の公娼文學に對する立派なる大正の私娼文學が出來るであらうと推測するに難くない。

卽ち社會の良心なるものは、惡を惡としない、不道德な行爲を恥としない狀態にあるのであるから、此點に於ては私共も諸君と共に大に廓淸を叫ばなくてはならぬと思つてゐる。殊に私は淺草の近くに住んでゐるから、此感を深うする、東京府會が公娼を認めた上、私娼の取締に難じて私娼の公認制度をも兼ね布かうとするのは、實に不都合千萬である。元來斯ういふ問題を衞生上からばかり論ずるのが既に誤れる第一步で、衞生に重きを置くといふ事は、風教を輕んずるといふ事に外ならぬのであるから、矛盾を生じ効果の擧がらう道理



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

がない、之を逆にして風敎を重んずるならば、衛生を輕んずるとしても、風敎を重んずる副因として衛生上に良果を來す事は明白である。

## □公證人たる藝妓の權威

私が藝妓の問題に就て痛切に思ふのは、今日の一流の藝妓が公證人みたやうな有様になつてゐる事である。大隈さんは其麼事はないが、これ迄の大臣は皆藝妓に親しんだ、實業家といふ實業家は皆藝妓の大切な顧客である。支那では所謂老妓の前で取り交された言葉は決して破る事が出來ない習慣があつたが、今日の日本の藝妓も丁度老妓のやうに、公證人の感がある。一流の藝妓の前で取引をすれば確實であるといふ恰も藝妓が公證人のやうな實力を有してゐるといふ事は、何といふ陋劣な社會であらう。

藝妓の勢力も茲に至つては啞然たらざるを得ないではないか。斯くの如くして藝妓は跋扈を極め、甚しきは家庭に迄出入する。細君たるもの〻恥辱之れに過ぎないではあるまいか或は眞面目な芽出度き會にも此醜業婦が出るやうな不都合が所在に演ぜられてゐる、願くば此方面に對しても諸君の御奮鬪を願はざるを得ない。

# 哲學心理學の上から

文學博士　福來友吉

□現代の哲學心理學の氣分はと云へば神祕といふ點にある。此頃は自我といふ言葉が大分流行するが、少からず鼻についた感がある。自我といふ事が世人に果して充分に理解されて用ひられてゐるか、寧ろ疑はしい。

□私は宗教とか道德とか、性とかいふものを三つのものと見ない。一つのもの〻三つの方面と見るのである。

□「性」の問題といふものは、餘り日本では研究されて居らぬ私は一體「善惡」といふものは、種族の利害といふ事にあらねばならぬと信じてゐる者である。今日迄の道德はしつかりした據り所がなかつたから、ぐら〱してゐるのである。「善惡」といふものが何處から發して來るか、何を標準として善惡なるものが起るか、私はそれを種族といふもの〻發展といふ處に置くのである。而して『性』の問題も亦茲から發しなければならぬとする者である。即ち純潔といふ事が、種族の發展と如何なる關係を有つかといふ事にある。

□斯様な點から見て、私は哲學及び心理學の上から諸君の御運動に贊成する者である。秋季の廓淸會の大會の際にはなるべく出席して、此方面から意見を述て見たいと思つてゐる。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 事業上の一夫一婦主義

貿易商　堀越善重郎

日露戰役後我國は一躍して世界の一等國となつた。乍併我國の實業家が品性の點に於て果して一等國民として世界の檜舞臺に、各國人と共に馳驅し得るであらうかといふと、頗る疑ひなきを得ない。

私が草深い田舍から東京へ出て驚異の眼を睜つたのは、明治十二年頃であつたが、當時の我が國の商工業なるものは、眞に貧弱憫れむに堪へたるものであつた。何んでも明治二十二年であつたと記憶する、土耳其の商船が我國に通商貿易を求めに來て、私共がこれに便乘して土耳其の方へ商業視察に出掛けた事がある。其時船は都合で支那の廣東に寄港し私は支那で有名な陳宏と云ふ人に會つたが、此人は識見學殖共に一世に秀で、常に『商工業の隆盛ならざる邦家は滅亡する、而して隆盛の根本は常に正直でなければならぬ。』と說いてゐた。此頃から支那人は商工業の取引に於ては、正直であらねばならぬといふ觀念が深く彼等の頭に植付けられたのである。だから今日實際支那人は商工業の取引に於ては、誠實で眞に安心である。當時支那人が如何なる手段で商業を營なんでゐるかに就て研究を試た私は以上の事實を發見するに及んで、深く感動せしめられざるを得なかつた。

日本人は政事上や殊に軍事上には優秀な民族であるが、商工業となると實にお恥かしい程劣つてゐる。特に實業家の道念に至つては全く零で、少しく心ある者の憂慮に堪へざる狀態にある。

□□□□

支那に『齊家遺範』といふ書がある。不肖私が此書に註をして廣く江湖に讀むで貰はん爲め出版した事があるが、其本の要旨は、「道德の觀念が商工業の根本に置かれないならば如何なる手段を弄しても商工業の發達を見る事は不可能である」といふにある。然るに我が國の實業なるものは、實業に非ずして寧ろ虛業である。現今社會から尊敬されてゐる有名な實業家なる者を觀るに、事業上の手腕は之れあるとも、人格の點に到つて唾棄すべき者比々皆然らざるはなく、彼等の重要なる商談は悉く待合の四疊半裡、化性の女を擁して淺酌低唱の間に行はれる。此一事實を以てしても其取引なるものゝ不純不潔を知るに充分であるが、彼等は私腹を肥す事にのみ汲々として、贅澤な身分不相應な生活振りをして豪然として得々たる有樣で、少し金が貯まると直ぐ自働車に乘る。蓄畜をする、恬として恥としない。

支那では蓄畜の多少に依りて富の程度を圖るといふ怪しからぬ習慣がある、我國に於ても一人でも二人でも蓄妾すればすぐあの人は金持だ、中々豪いなんどゝ見當違の賞讚をする。そして決して一言の其人の品性の高下に及ぶ者がない。何たる道德的觀念の鈍い國民であらうか。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□　□　□　□

由來東洋人は消極的の傾向がある、少し小金が出來ると、やれ邸宅だの別莊だの、蓄妾だのと騒ぐ、實に馬鹿々々しき限りで、斯かる弊風の止まざる限り、我國の商工業は如何に骨折つても發達する見込はない。モロッコやトルコの衰微した一因は其風俗の惡いのにある事は疑を容れぬ。此國にはマホメットといふ宗敎が盛んであつて、此宗旨は公然蓄妾を許してゐる。斯樣な有樣で風紀弛緩し國運の衰退するは當然の事である。嘗て土耳古の王サルタンの宮殿に四百五十人の美人が居た、これ等の美人はサルタン王に各國から献上したのである。其献上した美人が王の意に叶へば金が儲かるとか地位權勢を得るといふ有樣であり、其美人を守る番人は皆去勢術が施されてあるといふ、語るも汚らはしい狀態であつたから、今日の衰運を來したのである。蓄妾は實に國家を滅亡に導くバチルスであるといふべきである。

日露戰爭が濟んだ當時我國の實業界が一時非常に景氣付いた事がある。諸方に新しい會社が設立される、株は騰るして、有名無實の幽靈會社を興し空景氣に乘じて金を儲けた人が澤山あつた。間もなく經濟界の反動を受けて、基礎のない泡沫會社は續々破產した。それが爲めに幾多の人が少からざる損失を蒙り、迷惑を受けた事一通りでなかつた。則ち斯の如き場合に日本の實業が果して實業であるか虛業であるかといふ事が最も明白にされる。而して果せる哉虛業家の末路は實に悲慘を極めたのである。

□　□　□　□

私は明治十七年に米國へ渡つて彼の地の實業家と會つて、種々の事を學んだ。其の後實業觀光團に加つて再度の視察をしたが、依然として變化がない、着々と一つの事業を守つて精出して居た。之れに對して我國の商人は商買上でも多妻主義である。少し割がよいとすぐ自分の業を省ないで手を出す、よく一事に執着し得ないで幾何事業の發展を見るであらうか。眞の實業家は事業の上にも一婦主義である。假令一時は不利であつても凝乎と耐忍して飽迄自己の業務の發展に就て努力する、何處迄も節操がある、だから將來の繁榮といふものが其處から生ぜざるを得ないのである。然るに日本人は少し有望な事業と見ると自分の仕事を抛つて忽ち手を出したがる、銀行に手出し會社にも關係す、何の重役、何の社長とこれは實に我國の實業家の戒心すべき實に重大なる缺點である。元來人間といふものはそんなに萬能を有してゐる者ではない、現代は皆一婦主義に專門的になつてゐる、一人の人がさう無暗に色々の事業に手を擴げるといふ事は競爭激烈な世に於ては絕對に出來ない。所謂會社荒しと稱する者は得て斯かる八方主義の者に多いのである。

賃金の安い日本の品物が、競爭の出來ない理由は何處にあるか、たゞ私が諸君に希望する處は、健全な精神と百折不撓の態度とを以て、所謂事業上にも一夫一婦主義を以て、潔き貞操を保持して實業界に雄飛せられん事である。（講演大意文責記者）

# 家庭幸福の源

救世軍書記長官
廓清會評議員　山室軍平

嘗て英國のさる家庭に招かれた時、其の食堂に次のやうな扁額が懸けてあつた

『此の家の主人は基督なり、會話の度毎に見へざる聽者あり、食事の都度に隱れたる賓客あり』

家庭幸福の泉源は、**第一**神様を其家の主人と仰ぐにある。家庭の事大小となく此の信念によつて支配されなくてはならぬ。勿論私は此の扁額の言を理想とせよとばかり御勸めするのではない、これが眞に實行され、實際生活の上に現はれるやうにせねばならないとするのである。

これは一家の主長たる夫の主張であるから通さなければならぬとか、乃至家庭の女王たる妻の權利に關る事だから是非共やり遂げなければならぬとか、親だからどうだとか云つて、理非は第二にして押通さうとする樣な家庭には、幸福の泉は湧かぬであらう。

されば神を家庭の主人とし、家長と仰ぎ、一家族團欒の裡に禮拜をなし祈禱をなして、敬虔にして且つ美しき精神と情操とを養はなくてはならぬ。而して家庭が聖書を重んずるやうにならなくてはいけない。西洋の家庭には家庭聖書といふ通俗にして簡單な註釋附きの聖書があつて家科を助けるやうになつて居る。更に各章から一二の敎訓を學ぶやうにもなつて居る、少くとも毎日事を初める前に、正則に聖書を讀む必要がある。

□　□　□

**第二**に家庭幸福の根源は、申す迄もなく本會の常に主張しつゝある一夫一婦の倫を保つといふ思想が、充分に堅くあらねばならぬ。こは單に一家をなしてかゝる後の事のみでなく一夫一婦の思想は結婚に對して最も愼重なる考量をなし輕卒な結婚をしないに至るべき筈のものであるから、夫婦として結合の後に於て不都合の起りやうがなく、離婚の悪習も自然に消へ失せると云つた譯合となるのである。延いて國家社會の風敎に如何に善良なる影響を與へるであらうか想像するに難くないと思ふ。

先日私は徳富猪一郎氏から、一敬翁の遺されたる「頽感漫筆」といふ小册子を送つて貰つた、讀んで見るとそれは一敬翁の精神上の日記であり、信仰上の詩であつた。原稿其儘に印刷したもので、黒墨の跡朱墨訂正の跡歴々として仲々趣味深いものがある。其中には島田三郎氏が、加藤高明氏と横濱で選擧を爭ひ、見事に加藤氏を蹴落した事などが書かれ、正義の力が金力や權力に打勝つたと記されてある。明治三十九年四月十日といふ所に、今日始めて天父に祈つたとしてあるが、此時翁をして祈らしめた聖句は馬太傳五章の八節にある「心の淸き者は福也」といふ基督の御詞である。これが翁を基督に導く敎訓であつたといふ事である、更に其の頁の欄外を見るとエペソ書五章三十節の「人は父と母を離れ其の妻に配ひ二つのもの一體になるべし」と云ふ聖句が記してある。『此の敎訓と愛敵の敎訓とは他敎に於て見ざる所のものである、此の二敎訓を確保した基督の敎は實に難有い』と云つて、八十餘歳の老儒をして奉敎の動機たらしめたといふ事に徴するも、以て基督敎の一夫一婦の大倫が、如何に立派なものなる



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

かゞ分る。

或る婦人が初めて基督教を聞いた時に『男子の貞操』といふ語が其女の耳朶に響いた。其女は此の一言で基督教信者になると決心したといふ事である。我々は男子の貞操、一夫一婦の大倫それのみで基督教の眞髓でない事を知つてゐる。併し乍ら斯程まで人心を引き付ける力を有する一夫一婦の貞操であるならば我等は家庭の最も健實な中心思想たらせる事に努力しなくてはならぬではあるまいか。

□ □ □ □

第三には禁酒である。家庭に酒があつては到底家庭の清潔は望まれない。妻君がヒステリーになるのは、主人の酒に其原因がある、子孫の腦力なり體力なり或は又精神なりに及ぼす酒の害は實に戰慄すべきものである。昨年開かれた人種改良の世界大會で發表された處によると、人間の健康を最も害する物は、結核と花柳病と酒とであつた。

然るに或る人はクリスチヤンであるが節酒すればよからう、少量でさへあるなら何も差支いないと用ひてゐる人がある。けれども故のブース大將は『節酒家は救世軍に入れる必要がない』と云はれた。節酒家は果して眞のクリスチヤンたり得るであらうか、節酒などを主張する中庸的な人は、其友人に向つて思ひ切つた積極的な善事をする事の出來ない人であるに相違ない。本會々長の島田三郎さんは、初めは酒を飲み中頃節酒して居られたが、先生は多くの學生だちの保證人になつて居られる、そこで出這入りする學生等が島田先生も飲られるからと云つて飲酒をなし、果ては飲み過ぎるのを見聞され、人の模範といふ立場から決然絶對に酒を斥けらるゝに至つた。昨年彼の露西亞が斷乎として禁酒會を布いたのは皆人の知る所である。節酒主義とする中庸クリスチヤン、正に慚死すべきではないか。而して喫煙も亦、私共の見解は飲酒とこれを同じうする。

□ □ □ □

第四には、家庭は須らく勤勞なれ、と云ふのである。家庭の幸福亦實に茲に發する。長火鉢の側で凝乎として居つたのでは勢ひ不善を爲さゞるを得ぬ。『小人閑居して不善をなす』といふ古聖の言葉は我等を欺かない。昔の川柳に「居候三杯目にはそつと出し」「居候出さば出る氣で四杯食ひ」「居候お茶が熱いと飯で埋め」といふ句がある。これは居候に對する惡口であるが、先づ勤勉でない家庭の一人一人の心的作用はこんなものであらうかと思はれる。たとへ主人が外で働いて一家何不自由なく暮せるにしても、其家の主婦を始めとして、家内の子女老弱男女がいづれも下根な居候根性では駄目である。宜敷勤勞なるべし。然らざれば必ずや家庭の不幸は其處に胚胎せられるであらう。英の文豪ラスキンは嘗て『人は勞働者に非ざれば懶惰者也』と云つてゐる、蓋し至言である。

□ □ □ □

第五、は借金せない事である、以上の四項目が滯りなく守られる家庭であるならば、借金は起らないであらうが、若し借金といふものが出來るならば、其處から幸福は逃げ去る虞れがあるのである。

これだけの各項を實行し得る家庭であるならば、幸福の泉は滾々として其處から流れ出づるであらう。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

# 農村荒蕪と墮落女の研究

曾田愼默

千束町の村野靜子著「千束町より」と新宿某樓のキミヨと云ふ女郎の著した「遊女物語」と云ふ本を讀んだ。

後者の女も前者の女も相當敎育ある女で、皆な高等女學校卒業の履歷を持つてゐる。

前者のは暫く措き後者のキミヨの辿りし經路を臺として研究せん。

△**どうして娼婦になるか**

彼女は高等女學校を卒業し某病院の看護婦長まで勤めた、それが生家の破產のため多少纒つた金の必要から進んで女郎となつた、身を苦界に沈めると當時より毎日の感想を日記に殘して有つたのを露骨な個所は削つて某記者が訂正して出版せしが、遊女物語である。

此の女の出身は越後女であると云ふ事も、意味ある事で注意すべき事である。

それまでの敎育もあり、身分もあつた女が、まとまつた金が入るとは云へなぜ娼婦とまで倫落たであらうか。

之れは國々の一種の舊慣的道德から來た事である、越後は昔から娘はイクラ男を拵へてもよいと云ふ風習がある、其上娼婦として金を溜めて歸つて來た女を成功者として尊敬する風がある。コウした風習は、越後女をして娼婦にならしむる事を恥とも何んとも思はせて居ない、之れが越後から多くの女郎を都會に送る一大原因である。

東京の娼妓の生國を調べて見ると越後が一番で、次が愛知縣と岐阜縣である。

愛知縣や岐阜縣出身の娼妓には新平民が多い、社會が變態の因襲に捕はれて侮辱した反動から、斯の現象を來たらしたので社會の罪と云ふてよいと思ふ。

新平民は娘を生むと娼妓に賣る、金も欲しいが夫より、より深い原因は、此のまゝでは新平民の娘は廣く世間に通用しない、一度娼妓になればソレが新平民と云ふ事を忘しむる一大効力があるからだ、娘の嫁入口が廣くなるのだと親達は思つて居るのである、之れが愛知岐阜の兩縣から澤山の娼妓を出す重なる原因である。又悲慘ではないか。新平民の問題に付ても未だ決して解決されて居らぬ。

大阪の女郎は多くは香川や、廣島などから出て居るのである。此の二縣は日本でも有名な風俗の悪い所である。

廣島香川兩縣の如き兵營とか工場とか海軍工廠とか海陸軍人とか、一定の時間、しかも夜束縛を受けて勝手に自分の家に歸る事が出來ないと云ふ事と、各地の寄り合のあばずれものゝ生活が、知らず〳〵に他に及ぼした反應も多少の原因であらう。たとへば吳市にて水兵が滿期に歸るに支那靴は忘れはしないが、海田市驛まで行つて女房を忘れたと云ふ語草がある。悠うした風俗問題から娼婦と云ふものを見て居る其の土地の人々の間に、娼婦になる事を恥とも思はぬ心があると云ふ事が「どうして女郎になるか」の問に對して第一考へねばならぬ事であると思ふ。

和歌山縣の如きは農家の滅亡により百姓では飯が喰へぬと云ふ自己呪咀の反動から、娼妓と云ふ形骸となつて現れるので、農民保護政策の是認せられぬ賜であらう。

△**親權の亂用か**

親に賣られて娼妓になるものが娼妓には中々多い、法律家でない僕は親權と云ふものはどんなものか知らぬが、たとへ如何なる理が有らうとも娘を親が賣ると云ふ法はない事である。

遺傳的な親權病である、此病氣の犧牲になる娘は可哀想だ、之れを買ひに行く老青年は一層慘じめだ、又娘も親のためだ仕方がないと泣き〳〵賣られて行く。コウ云ふ場合は、彼の舊劇で親のために賣られる娘を孝行娘にして見せる感化も、大なる力あるものかも知れぬ。

△**趣味と職業の一致**

根が淫奔だから女郎になる樣なハメに落ち入る女

も多い。

男子にしても、だん〲趣味と職業と略ぼ一致するやうな處へ行つて、身が落ちつくものであるやうに、女にしても其の身の落ち着き場所に行くには、最も強く引かれて行くと云ふ處に落ち行くは當然である。

△娼婦が墮落させて男子を都會に送る

余は正月千葉縣下を旅行した。同縣の人口の増減を見るに土着の男子が年々都會に吸收され、反對に都會の婦人が盛んに千葉縣に輸入増加の狀況を呈し、農村の荒蕪の傾向を目撃した。地主の膨大と小作農民の増加とによりて、自作農民の減少の滅亡による事も大いならん、容易ならざる社會問題である。

數字的に示せば壹年に人口千に對する七分三厘の減退を示しつゝある、男子が郷里を捨てゝ盛んに他縣に出で獨り盛んに發展して増加し行くは醜業婦である、是らの徒輩が農村の經濟を濫費さして遂に男子を裸體にして都會に送るのである。

△娼婦の末路

どんな女だつて年を取ると構い手がなくなる、別に本會の如き、いな宗教なんかの手を煩はさずと雖も考へ出す、人間は極端まで行けば必ず歸つて來る性質がある、然れどその時は幾年かの生涯を棒にふつた後で注射が利かない時である、

第一娼婦は何んな事を望みつゝあるか。

彼等稼ぎ中は情夫がなくば生きて居られない傾向がある、生活のために肉を賣り不自由な中にも自分の相思の情夫あると云ふ事によりて慰められて居る、未來の望みとしては誰れかゞ身受して呉れんか知らんと念願を捧げて居る。遊廓側の主人に身受と娼婦の落ちつく先を聞いて見たが、ある人は曰く……身受される女は却つて不幸だといふ、何せと云ふに、男はサンザン金を費つて、モウ家産がグヲづき出して居る、そこへ身受されて行くのだからたまらぬと、年季まで勤めたつて、牛太郎の女房、土方、賭博打ちの女房になるのが多い、こう云ふものゝ女房は素人では、勤まらない、娼婦上りが持つて來いだといふ、其外眞面目な處に落ち行く者は千に一しかないとの事だ。

△當局に望む

娼妓や醜業婦に衛生上檢梅するのは止むを得ないとして、千葉縣の如きは茶屋女が檢梅されて居る彼らは檢査されると御客に平氣で話すそれによりて淫行を強いる一つの看板となつて居るのである、若し秘賣者あるとすれば現行法規をどん〲勵行して、取締ては如何、まさか宿屋の下女にストライキされて困るやうな心配もなからうに。

第二には行政官自ら潔くなれと云ふ事を望む、立派な「法」のみ存在せばとて、活用する人なくば何んにならう、先達て或る町で余は終列車で歸るべく驛に行く途中、何處の巡査か知らず飯ブラ〱さして正帽正服で、だるま屋から千鳥足で二人連れで駐在所に行くのを見て、迚ても迚ても田舍の廓清運動は未だ〱と嘆息して驛に行つた、德育の涵養なんて定規式の訓話をよく聞くが、それよりか全世界より尊い靈魂ある人間の目標であると云ふ信念と權威ある官吏を養成して貰ひたい之れが大なる風俗問題に關係する。此の意味から云へば駐在巡査をして一村一町受持たせる事はなんだか心細い。

△青年は奮ひたて

余と雖も年若き青年である、凡百方面に鋭い感情を有してゐる。が、少しく心ある思ひを以て默想する時に、諸君の耳朶に此の幽谷に落ち行く我が同胞の泣聲が、心の琴に響く事はないであらうか。

我等は幸か不幸か此の問題の救濟に研究の餘裕を持たぬ、人の子が川に漂ふにどうして流れるかと研究する馬鹿もあるまい、斯うした經路を辿りつゝ落ち行く女を……未來多き勇氣を以て、此の人道問題を青年が立ちさはらずしてたれがなすか、廓清運動のため參加せよ。津々浦々まで前進せよ。



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# 川崎事件愈出でて愈奇怪

江南

## △果然川崎警察の無能

本誌前月號に詳報したる川崎遊廓の暴行事件は、何等意志又は身體に壓迫を加へたる事實なし、而して牛太夫は取調べたるに熟考の結果廢業を思ひ止りたる者である」と明言したるに關らず、今や反對の事實が擧つて其無能を暴露するに至つた。記者は敢て無能といふ、蓋し之れを故意にと解するよりは敬意を表する所以であるからである。

去月十九日、警察が「熟考の上廢業を思ひ止つた」といふ牛太夫が、突として銀座の本營に姿を現した。其語る處によると、當時路傍に打倒れ氣が遠くなつてゐる處を抱へ歸られ、一室に監禁して「飽迄廢業する思へなごゝ云ふなら、お前の親爺迄叩き殺すからさう思へ、お前も眼の前で救世軍が袋叩きにされるのを見たぢやないか」と脅迫して居つたさうである。

山田大校から再三再四、保護を求め注意を促したに關らず傲然として「警察は人民の命を聞く處にあらず」と答へた川崎警察、何の顔がある。之れに比ぶると洲崎の警察は川崎程庸暗ではなかつた。洲崎署は直に二娼妓を樓主の手より奪ひ返したから、二娼妓は樓主の壓迫から免れて自由意志によつて翌日廢業する事が出來たのであるが、川崎警察は、本件の主體たる娼妓を加害者の手に（樓主は加害者でないといふのは表面の事で、常識のある者は黒幕の中から樓主の手が操つたのを認めぬ事は出來ぬ）委れて、毫も保護の手を加へなかつたといふのは、餘程不思議なやうである

## △保安課の態度

牛太夫は目下横濱の親元に預けられ、三十日迄休業中であるを幸ひ、再び救世軍を頼つて當初の目的を遂げ度といふのであつた。救世軍では再考を促し二十六日改めて來るべきを告げて引取らせたが、本人の意志は中々鞏固で、二十六日約に違はず早朝からやつて來た。乃ち山田大校は記者に同行を求め、三人打伴れて神奈川縣廳に出頭した。蓋し最早川崎警察なごを對手とせず、直接保安課に掛合によつては廢業の記錄を破らう爲めであつた。

坪田保安課長と次席の安藤警部に會つて委曲陳情の後、山田大校は「從來の經驗によれば川崎警察は信ずる事が出來ぬ、娼妓取締規則を無視してゐる、殊に遊廓と醜關係があるとさへ娼妓仲間に專ら取沙汰されて居るとの事であるから、適當の御處置を仰ぎ度く御相談に參つた」とて種々押問答の末、保安課長は（一）娼妓の廢業は所轄警察に限る事。（二）醜聞ありとも事實を押ゆる事なくしては何等の處置を執るを得ず。（三）不法の取扱をなすとの事なるも過去の事を以て將來を推斷するを得ず、故に今回は兎も角も廢業の申請をなし、不都合の行爲あらば其時申出ありたし、今は何とも致し方なし。（四）川崎警察を信ぜずと云はるゝも、監督官廳の信任せざる警察はある事なし、若しありとすれば同時に存在して居ない筈である、即ち存在して居る間は信任するものと承知あり度し。

といふ意味の答辯あり、山田氏は監督官廳としての立場さもあらん、然らば兎も角川崎に行く事とし此要求は撤回すべし、併し乍ら「川崎警察を信ぜずといふ我等の觀念を撤回するのではありませんよ、飽迄川崎警察は信じないが、此不信任の觀念より發足したる廢業特別取扱の申請だけを撤回します」と述べ。「それならば同時に新しき要求が起る、それは川崎町は危險である、之れは推測でなく目前の事實であるから保護を附せられ度い」と求め、課長は「非常に本廳は忙がしいですから……」と言ひ澁ぶるを山田氏は隙さず「いや此處から着けて頂かなくともいゝです、川崎警察から、私達が停車場に下りる時に來て居て貰へばいゝのです」といふ「あゝそれならいゝです、危險だから保護しろといふのは當然の事ですから通知します。けれども今日は總選擧の後で非常に忙しいですからどうかと思ひます、廿九日頃になれば」との事に山田氏之を諒とし、廿九日の午前十時前後着といふ事に打合はせ、確く約して引上げた。

## △杜撰なる報告と無責任

其時安藤警部は、二月十三日事件の經過を問ひたるに對し川崎警察署へ照會し、其結果を語る。牛太夫と共に廢業せんとした信夫は、目下平塚の金清樓支店に目見え中である。加害者三名は三月十六日



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

宣告があつた、主謀者は野中兼吉(二七)といふ出入の植木屋で、傷害罪と娼妓取締規則第六條違反の二つで罰金三十圓、竹内六三郎、和田常吉といふ同人の使用人二名は傷害罪だけで科料各十五圓、年は二人ともまだ極く若い。との事に山田大校は「署長は取締違反はない」と私に明言してゐるから間違ではあるまいかと念を押したるに、安藤警部は、確に川崎警察は第六條違反と傷害罪と二つで送つたといふて居るとの答へ、藤本コマの件は廢業せんとしたるに非ず、主人が勘定を曖昧にするより判然して貰ふ爲であつた面會も求めたるに非ずとの驚く可き答へである。山田氏は憤慨措かなかつたが本日の件と別問題だから他日に讓つて引取つた。けれども取締規則違反は出來過ぎてゐるから、念の爲め歸路檢事局に寄つて調査して見ると、果然、川崎警察の出鱈目と保安課の杜撰が發見されたのである、此方の調査によるとやはり川崎警察は娼妓取締規則違反の告發はしてゐない、從つて裁判も傷害罪だけである。のみならず、三人の職業も年齡も全く嘘八百、よい加減の出鱈目に過ぎなかつた

罰金三十圓　土木請負業　野口　兼吉(二七)
科料十五圓　仕立屋　竹内六三郎(三八)
科料十五圓　飲食店　和田　常吉(四六)

之れ實に何事であるか、川崎警察の出鱈目元より許すべからず、而して之れを妄信して蓄音機の如く受次いで國民に發表したる保安課の無責任亦大に鼓を鳴らすべきものではあるまいか。知る可し川崎警察と云ひ保安課と云ひ國民に對する誠意のない事を。唯表面を無事に繕らうに過ぎないならば、斯の如き警察に生命財産を托する國民の危險、言語に絶するではないか。

## △亂暴な警察と僞罔の保安課

約によつて廿九日午前十一時、又もや三人連れで川崎驛に下車したが、巡査の影もなかつた。さてこそと念の爲め驛の自働電話で警察に問合はすると、署長は「川崎町は危險な處ではない、大丈夫、此鈴木が引受けるから、來るなら勝手にお出なさい」とて直に電話を切る。奇怪極まる暴言と、寧ろ其無識を憫まずには居られなかつた。川崎町は危險でないといふが、現に白晝彼の大暴行が行はれたではないか、他の事件ではない、同一事件の延長であるにも拘らず、特別の警戒を加へたからといふのならまだしも、警察の奥で、川崎町に危險はないと大膽に何を根據としていふのであるか、殊に乃公が引受けるとは何たる亂暴な言葉であらう、我等は乍遺憾署長の常識を疑ふ、人の身體生命に對して引受けるといふ事が出來るか、物質上の損害に對しては辨償の道もあらう。乍併人の身體生命に對しては、或程度の慰藉は出來るが償ふといふ事は大能の神に非ずして、斷じて人間に不可能の事である。然るに僅に一警部輩の身を以て引受けるとは何事である、亂暴にも程こそあれ。

我等は吃驚して直に電話を保安課にかける事にしてゐると、驛前の運送屋の主人が警察から言傳けられたとて「大丈夫だから、勝手にお出でなさい」といふ事であつたといふ。我等は構はず保安課に糾問すると無法にも安藤警部は「其麼約束した覺えはない、大丈夫だといふなら行つたらどうです」といふ。貴下では分らぬから課長をと呼び、課長は「一般的の保護を與へるやうに通牒したが、停車場に巡査を派して保護せしむるといふ樣な具體的の約束はせぬ」と奇怪にも食言するに至つた。此時迄我等は課長丈は新しい敎育を受けて人權の何物たるかを知つてゐやうと、多少の信賴を有ツてゐた丈に、すつかり落膽して了つた。あれ程堅く言葉を番へながら一般的の保護は、など逃げるとは、丸で詐僞師の事ではないか、責任あり地位ある人の言葉かと惘れて了つた。公人として不埒を詰りたいばかりでなく、吾人は紳士としての彼の爲に惜しまざるを得ないではないか。

## △權勢ぶる滑稽劇

警察賴む可からず保安課亦信ず可からずとせば我等は昨夏以來内務省に報告する事になつてゐるから、内務省の問題とする迄である。兎も角今後の方法は本營に引返しての事と、十二時何分か發の汽車を待つて居た。然るに警察の方では電話がかゝつてから既に小一時間にもなるがやつて來ないので、氣になると見へて巡査が待合室にやつて來た。「大丈夫だから來るなら自由にお出なさい。」といふ署長からの言傳です、尤も私は態々それを言ひに來たのではない、他へ行く序に寄つた迄ですがれ」といふ。態々來たと云つたとて値打が下る譯でもないに、他へ行くのだと斷るのは滑稽至極である。假しやそれが事實であつたとて必要のない語ではないか、そんな事を云はないでは氣が濟まない處がよく巡査氣質を現はしてゐると頰笑まれる。山田氏は「貴官が迎へに來て下さつたのなら行きますが、さうでないのなら今度の汽車で此儘引上げます、さう傳へて下さい」と答へ、巡査は意を諒してガチヤ〳〵と佩劍の音を響かしつゝ警察の方へ引返した。此樣子では態々來て態々歸つたやうである。ひよつとすると「さうですか」と我々が出掛けたら、見え隱れにこつそり保護する積りであつたかも知れぬ。それなら愈々滑稽である。何れにしても此一齣に、權勢ぶる警察氣質が現はれて頗る面白い幕を見る事が出來た。



Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

### △敢て保安課長に問ふ

若し保安課長がいふが如く、一般的の保護に止まるならば、我々は何で殊更に保護を求むる必要があらう。帝國の臣民は常に警察權の保護の下に安んじて居る筈である。然るに其一般的の保護がありながら川崎遊廓連の大暴行に會したのであるから、最早川崎町に於ては、少くとも此問題に於ては一般的の保護なる領域は不充分であるといふ事になる、況んや本件は廢業せんとする者も、助力せんとする者も、同一人であつて、暴行事件の繼續延長と見なければならぬ性質のものである、從つて一般的などの保護は既に無效な者となつてゐる。さればこそ態々保護を求め、課長亦同意して二十九日にして呉れと我等に求め時間迄も定めた程ではなかつたか。斯くても尚それは一般的の保護の積りであつたとしらを切るならば、一彈を頂門に加ふる事が出來る。卽ち然らば、論理上神奈川縣は平生に於ては一般的の保護をすら加へてないといふ事になる、一般的の保護なるものが特別に日時を定めて通知を發する程であるならば、危險千萬て、縣民は寸時も安んずる事の出來ない累卵の狀態にあることになる、坪田課長以て如何となす。

### △我等の爲の我等の警察

或は加害者は既に捕へられてゐるからと辯ずるかも知れぬ。併し別々に二ケ所に起つた大暴行である、加害者が三名ごころでない多數である事は疑を容れる餘地がない。三名が偶々證據充分であつた迄である。況んや性質上樓主との利害が衝突してゐる間は、常に危險は伏在してゐると見なければならぬ。

若し課長が部下を愛する爲めに人民を保護する事を蔑如したなら、其職分からはなれた者である。警察の威信の爲だと解するならば、それこそ矛盾であつて法を枉げ人民怨嗟の府となつて、何を以て威信が保たれやう、警察は我等の警察である、我等は我等の爲に正義を絕叫して警察の不當を改めしめなければならぬ

本件に就ては、日を改めて新なる交涉をする筈になつてゐる、不取敢本人の休業延期屆を出して置いた。次號に於て更に續報する處あらん。

# 暴戾極まる中野警察

長野縣中野　立石芳松

### □人道戰の序幕

當地平穩遊廓小島樓娼妓、鶴松、濱浦の兩人より廓清會科野支部創立事務所小林政次郞氏に、廢業の援助を乞ふ旨の書面二月上旬に來た。けれども當中野警察は、表面上は如何にもせよ、內實樓主は金を出して買ひ、本人は賣られた者（卽ち人身賣買）であるから、借金を濟まさねば、廢業は許さぬといふ暴戾なる警察で、既に昨年十二月一娼妓を其儘樓主に引渡した例があり、到底一筋では行かぬと思つて、本部に來援を乞ひたるに、伊藤氏編輯時で月末ならでは來援が出來ぬとの事故、月末迄延ばしたるも、月末にも多忙の爲め應援が六ケ敷との事であつたから、本人達はとう／＼待ち兼ねて脫樓し救ひを求むるに至つたので、小林政次郞、浦野善比古の兩廓清會員は、二娼妓を同道して小生方に來た。時は恰も三月七日、日曜の午後四時頃であつた。

そこで小生は本人共に廢業の理由を糺したが、鶴松は昨夏半產した爲め身體衰弱し、到底堪へられず、其上虐待され、近頃は消喝病で客に接する事が困難であると云ひ、濱浦は身體虛弱にて特別の滋養物を食して居るが、自分で仕拂をせねばならぬので、とても遣切れないのみならず、計算上に曖昧の事實があつたので小生は之れなれば何ぼ中野警察でも大丈夫と思ひ、日曜の夜の禮拜前なので小生は行かず、小林、浦野兩氏が着いて削除申請に行く事とした。

### □奇怪なる署長の勵精

兩人が二娼妓を伴れて出頭したのは七日午後五時頃であつたが、それから翌八日午前三時半迄署長自ら調べて、兩人共廢業の意志は充分なるも、深夜の事故、一應引取り八時に出頭せよとて、鶴松一人に外泊を許し、濱浦はまた調べがあるとて留置いた。其處で鶴松を教會の牧師館にと申出でたが署長は之を許さず、中長館といふ一旅館に投宿させ、宿料は小林氏に拂へと命じた、不都合千萬とは思つたが大事の前の小事と強

て默して、彼のいふが儘にして引取つたのは午前四時に垂んとし、東天未だ茜さゝず、山國の夜は深沈として、大氣は濕然と冷に轉た凄涼たるものがある。人道の爲めに悲壯の戰の序幕を切つて落したる二人の勇者が、闇を衝いて歩む姿の、如何に崇高であつたであらうか。

## □不當干渉の數々

翌くれば月曜故午前八時、小生も諸共に鶴松を伴れて警察に出頭した。然るは前夜來十時間以上調べて居るにも不拘、又々午後一時迄取調るとの口實の下に引延ばし、其内前夜より來り種々相談して居つた中島長吉なる者が、遊廓代表者として來り、小林氏に面會を求め、親元より人の來る筈故晩方迄待ち吳れと申込んだ。併し斯樣の手は最早度々やられた手であるから罹つてはならぬと思ひ、殊に警察での話は不利益と見たから、小生宅にて話すやう申した處、青木部長は飛んで來て、警察の一室を貸與するから、其處で話すやうにとの事であり、餘り干渉が過ぎると思だから小生も一言爭つたが、小林氏に面會を求めたのだからとて強て不馴れの小林氏一人を引入れ、續いて入らんとする小生浦野兩人は入るを許さぬので、止むを得ず唇を嚙んで見て居ると、遊廓側より數名ぞや〳〵而も一言の挨拶さへせず入り込んだ。

話は段々面倒になつて來た、警官も共に夕方迄待たぬ法があるかど、無理に横暴にも待たせる事とし、早速兩娼妓は前記中長館に宿せしめた。親權者が來てから一同立合の上相談すると申して欺むき、樓主側よりは數名同宿して強て連れ歸らんと、或は威脅し、或は甘言を以て陷れんとし、危險が迫まつてゐる旨娼妓よりは助を求むる書面又は傳言ありし故、面會に行けば警察と樓主側と迫害を加へ、廓清會員には決して面會を許さぬにぞ、壓迫に堪へかれて落城してはならぬと、夜に入ても廓清會員は時々路傍より二階に向つて大きな聲を舉げては注射を入れ力をつけつゝあつたのは眞に悲壯の光景であつた。

## □人格無視の警察官

一方に小林氏は止むなく縣廳へ出頭して警察部長に面會を求めたが、不在との事に保安課に來りて課長に面會を求めたがこれ又不在であつたが、受付では左樣なる道理はない筈だから、面會するも差支なしと曰はれたので、即ち小林氏は歸つて再び宿屋に面會を求めたが、自ら親權者と名乘る口入屋が虛僞の申立をなして面會を妨げたので、小生も共に行き種々法律上より人權上より面會を妨げる事の出來ざる理由を說いたが、無論彼等に聞分ける耳があらう筈なく、強て面會を求めたら、數名が暴行を加へたので、警察署に其旨を小林氏は屆けて保護を求めた處、佐藤と申す部長は「人の財產を強奪する故當然ぢや」と、狂暴にも娼妓を財物と公言して應じない。そこで小生は署長に面會を求め一什始終を語り、

（一）虛僞の申立てをなし本人自らの不利を圖る者を親權者と見るか

（二）本人の意志を重んずる故を以て面會を避け吳れとの義でありながら、口入屋及樓主を同宿させて彼等の意志を曲げんとするは如何。

（三）本人の意志を重んずるなれば何故我々も立合の上話を致さぬか。

との問を發した。然るに第一は自ら親權者と名乘りし故信じたのである。第二は樓主等が同宿致し居る事は存ぜず、第三は今警察に呼び出し面會致さすとの事にて、晩方の事故部長に萬事を一任致置きたればとて退署して了つた。

## □壓迫の成功

然るに佐藤部長は、小生の申立てた事がどうして分つたかといふ。小生は、本人より書面又は傳言のあつた旨を申した處が、確實なる書面のあるにも關らず、其傳言の使者を呼んで來いといふ、無法な要求に、小生も驚いて、人口七八千もある町で、他縣から寄留して居る我等が如何にして伴れ來る事を得やうや、餘り馬鹿々々しく部長の言葉とも思へぬと申したので、辛やく娼妓兩名を呼出して、いきなりたゞ「汝等は此人に手紙を出したか」と尋れ、娼妓達は「いゝえ……」といふ一言に後の言葉を遮りて、「其一言にて足れり、小生共の申立が虛僞也」とのことに餘りの不都合と、「それは小生には非ず小生元より彼等を知るに非ず小林政次郎に使を送りしなり」と申し、今本人共に其趣を尋れんとせしに、何等の理由にや談話を許さず彼等を退出させて、延ては小生に迄腕力を揮はんとせし故、又々保安課に掛合ひしも要領を得ず、其内本部へ數回電報を以て援助を乞ひしが遂に五日間を經過し、鶴松は樓主に連れ歸られ、其翌日浦濱は壓迫に堪へず逃走したが、土地不案内の爲めに捕はれ、我々には何の挨拶もなく樓主に引渡した。只今では本人の自由意志によつて歸樓せしと申居るも、歸樓の途中逃走せんとした一事を以ても、壓迫は明瞭である。

其後本部より宇野陸軍中佐、益富理事來援せられ、ノルマン氏ホワイテング師も同情を以て、大澤辯護士に依賴し、縣の警察部に掛合ひあり、目下其交涉中であるから、其後の經過は次號に讓り、玆に今日迄の樣子を御報告申上ぐる次第である。

短篇

# 春の家

大石枕月

## 其の二　自我の問答

いやに減らず口を叩く奴だ。通行税や織物税に消費税非常の上に特別税で、人民塗炭の困危に苦んで居る折柄だ、如何喋々税が出ないからつて、少しは控えらうへん正月から縁起でもねえ閉口頓首したら立憲政治有終の美を發揮する事が出來ない、第一言論の自由は蓋し憲法の保證する所だからね、試に一國の代表者否、理想の首相大隈閣下をみ給へ、大風呂敷の大先生否標本ではないか、然るが故に天下の信望を一身に擔ふて、國家の大事を左右して居るではないか、而してだ、今回の總選擧の狀態は如何に、政府與黨の大勝利は、蓋し言論卽ち三寸の舌力にあらずんば果して何ぞやだ。不肖と雖も他日天下の選良たる代議たらんと欲する卵である、故に今よりして其の第一資格要件たる辯舌を練磨し未來に於て議政壇上の花形となり、國利民福の爲め熱辯を振ふべく準備しつゝあるんだ、

フヽン表面に現はれた結果のみを以てだね直に皮相の見解をなし、虛榮に憧れ空想に耽りて、天上のみを仰ぎて步む者は必らずつまずく石があるから、先づ以て足許の用心が必要だ、事に本末始終あり、土臺のない家屋は倒壞する、基礎を造るには努力奮鬪、熱心克己乃至は勤勉がいる、而してだ、學識、信用、地位權力、金力、威力、才智手腕、風采、人格が兼備つて、玆に始めて言論の價値ありだ。花より團子、言論より金だ、國利よりも私腹を肥やし、民福よりも動何等の御大禮議員なんかになる内は眞の立憲政治の美といふ事を得ないからね。まあ／＼理想は高きに置がいゝさ少なくも神經衰弱の豫防法には效能はある事受合だ。だから議[illegible]して我儘に傚たまい、だがヒヤ／＼ノウ／＼が無くんばだ、張合があるまいと思ふてさ、餘計な御世話だい、三尺長屋の井戸側會議、兎角生れが生れだけに急御里が推知れるよ。五月蠅なお政友會の連中の樣に妾や女郎藝妓や乃至は賣春婦根生を出すないだがさ政府だつて隨分人氣取の米價調節策なんて、小田原會議を遣るではないか。ヘン向ふがよければ此方が惡し、釣合ないのは不緣の基。江東ぢや龍攘虎搏の肉彈戰で、色男同志の浦と綾、勝つて嬉ぶ綾あれば、負けて口惜がる浦がある、贔負の引倒し、學生が愉快がれば藝者が泣くわい、兎角世の中では孔子ではないが、天二物を與へず、今年は二兎では成功しない、二足の草鞋は一度にはけず、釋迦は獨りで唯我獨尊、クリストはバイブルで二人の主に仕へられないと、其ちらが五十步で、此ちらが百步お互に五步の理屈があるよ、程のよい、引分位で負けて置け。圓い地球に四角な理屈は篏らないと昔から相場は極まつたもの、事足ればたるに任かせて事足らずたらで事たる身こそ安けれ、之れが處世法の秘訣卽ち悟りだよ。成程よく知つてるね、知らなきや言ふて聽かせ樣、大晦日越すに越されず越されずに越す、とは川柳子。ヘン負えば抱るとするには閉口だね、實に盲蛇に怖ずの類かね、酒飲めば借金取りも熊の擘とは、什麽だ。古臭い／＼今更らしくいふない、天で鼠が笑ひます、外では烏がアホー／＼と鳴きまする、元日や昨日の鬼が禮に來る、脫線／＼、さう／＼脫線故障なされては、仙石さんどころか國民が閉口、小僧が無實で使いの遲刻で叱責るれば、隣近傍が迷惑だ。なに何んだと隣の味噌が腐敗るつて、構はない／＼吾れの物ではなし許せ／＼。仕方のない個人主義だね。其れはさうさ、學校の先生が個人性の自覺が必要だと申したではないか、況んやだ、人間は慾望の追及者だもの。道理で出すは舌でも貰ふは夏も小袖で。選擧も金なら、操も肉も乃至は、人格も何も彼も金、金の光や、金力萬能、蓋し念佛よりも金、俺等もなりたい本願寺の捕虜に寢ていて暮らす大晦日、ていな所かね。まあさ靜かにしろ晩に奢るから、當にせず待てるよ。ア、言ばこういふ仕樣のない駄々子だね。夫れは俺等の罪ではないよ、可愛子には旅をさせよといふが、他人の中で修業をさせないのは親の罪だよ、又よく饒舌のは、乳母や日傘で育てられ、頭の押へてがなかつたからさ。口が横に裂て居ると見へてよくさういふ事が申されるね、燒野の雉子夜の鶴、其所が親の心子知らずといふのだらうね。だが然かし子の心親知らずとも申されませう。子供が理想な嫁婿は親達が不承知、親の目鏡に叶ふものは本人同志が厭、帶には短かしたすきに長し、形式上何に不自由のない家庭には子供がすくない、貧乏人の子澤山、實に儘にならない浮世かな。城傾て忠臣出で家貧にして孝子出づ。親の財產を當てにすれや茶瓶頭が邪寃になる入れて遣りたや火消壷、なんて不孝な所行は貧乏人には出來ない藝當だ、災なるかな富豪、不取敢不孝者の專賣特許局とは。ハヽア其の火消壷で思ひ出した夫れ先程御承知の色男ねえ。さう／＼三保の松原式の夏向の髭よ。嘲弄しては不可本統だから。フヽン、厭



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

やに妙な返事だね、御挨拶何とも早や恐縮だね、偖其の松原から日の出だね、嘸い〻景色だらう。眞紅の昼を眞一文字、何だつて、其れでは大蛇だね、此所許御覧に供しまするは安珍淸姫、で月鐘でも溶かすのか、まあさうだ非常によい口許で、おまけに齒が白ふて列びが美麗で、髮は烏の濡羽色、七分三分に……一寸待てまあ待て血想變えて、尻を捲くつて何所え行くんだ。いや當世流のメリケン刈、其のウドン粉が什うしたのかネ、まあ油揚でも喰たろかよく顋が脱れないね。瓜實顔で恰度玉子に眼鼻、蓋し唐瓜に口かね、其の通り〳〵。其れではなか〳〵女子が岡惚るだろう、斯う見えたつて馬鹿にするない、今の若さに一人や二人あるが恥かよ無が辱、生命までもと打込でいる小指があるさ、ハヽア、兎角世の中に自惚れと梅毒氣のないものはないさうだからね、まあ川岸の踏張女で自ら慰めて居ろがね。磯の鮑の片思ひ、傾城に誠なしとは古今の訓言、祈誓證文の千枚も抱えて開運出世の守札の様に有難がつて、鬼の首でも贏ち得た様に嬉しがつて居る内は先づ無事だが、雪駄の皮と同一運命に、金の切目が縁の断目で、吉原が明ろくなれば家が暗、生れもつかぬ不具者とならない内に、氣轉丸毒下しでも飲んで御用心〳〵、時節柄火の用心が大切だ、焼け出された後の後悔先に立ためだからね、先づ其所等が頂門の一針だらうネ。夫れはさうと吾れ吾れの垂涎三尺して措かない色男は什ふしたと、まあ安心し給へ心配は腦の毒、彼は天二物を與えない法則で、身の丈が二寸足りない、所謂白壁の一瑕瑾といふ所だね、やれ〳〵其れで漸と溜飲が降た、が而かした、其の安心は問屋で卸さないよ。什うして何故されば花は半開にして觀酒は微醉に尊ふといふ事があるから、成程、滿れば缺くる世の習だから足りない所が好いとさ、おや〳〵惚れば爛も笑靨ていな所だね。戯談でせう、自分を以て徒らに他人を測度する不可だ、野合内縁的仲に出來たんではないからね。口は方便、乞食の芝居は止したがい〻よ、だが川原乞食も藝術とやらに出世した今日だ或る場合は重寶だよ。ハヽア其れで思付いたが、時に役者買ひをする女や、男地獄を置く婦人があるとよ、嘸ぞ漢學者が見たら澆季の世と泣くだらう、敢て漢學者のみならんやだ、苟も志あるもの〻慨嘆に堪へない所だね。第一、萬物の靈長だ抔と威張て居るが、又進化論者は人間は獸類より進化したと仰せあるが、其れは形式上のみで、實は禽獸にだも劣つて居る。卽ち生存の意義を御存じない、一言目には生理科學が發生して居るとの仰せだが、生殖の何ものたるかを解して居らぬ。禽獸には有意味か無意味かは知らないが兎に角一定の交尾期があつて、一絲亂れて居らぬ、而かも其の時季に於ける彼等は決して多情亂淫でない、二夫や二婦に交接ない、斯くして男女の關係は整然たるものである。然るに幸か不幸か人間には、理性とか思考力がありと常に誇るにも不拘、生殖を以て最大の快樂と思惟して、盛んに亂用してゐるではないか、然らば汝の金看板は如何に立派なる人間たりと雖も萬物の靈長として彼等に誇る價値何れにありやだ、事玆に到つては人倫も道德も蜂の頭もありはせん、畜類より劣等であると、申されても黒い頭の動物一言半句の辯解は出來まい。加之だ此の人間社會には猥褻だの姦淫だの重婚の罪だと、嚴しいさうして、鹿爪らしい御規則がある、其れだのに風紀が修らない。畜類には法律はないが、男女の關係は、規律正しい。理解力があつて行はない人間と、其の力がなくして、修身の出來る畜等、果して何れが尊いか？又何れが卑いか司法省に御伺ひしたら什んなものだ。人間は故意があるからと、先づ軍扇は畜生道に擧ろだろう。ア、世は澆季だ、秋は末世だ、昔は人道から畜生道に墜ろを嘆いたといふが、今は畜生道から人道に落ちろと泣かれはならぬ、實に文明は有難いものだ。之れでは萬物の靈長と黒い頭の動物に、名譽ある稱號を授けた御釋迦樣が地下で瞑する事が出來まい。御手内の極樂にも行かれないだらう、何に緣なき衆生は度し難しだ。キリストは、豚に眞珠で逃をはり。孔子は女子と小人は養ひ難しで手を燒たのも道理。何れ如何なる時代でも御し易からぬは人間といふ動物だ。ア、濁世ア、浮世だ。夫れも其筈、猥褻姦淫重婚の罪がある御國に、狂蜂痴蝶を教授する遊廓、魔窟が公々然と、而かも官許で難攻不落の不夜城と誇り顔なんだもの、百鬼夜行どころか、萬鬼晝行敢て怪しむに足らんさ。ア、人生の行路亦至難なるかな、恰度井の中の蛙が大海に出た樣に滄洋漫たる太平洋、梶なきの船何れの港にか適歸せん、浮世の風波一陣來つて、槿花一朝木葉微塵何のものかは、憐れ憫然千尋の海底に悲慘の最後を遂ぐるが關の山だ。氣の弱い、さうして肝膽の小さな人間が行路に迷ふて、先哲に其の質疑を訊すべく、華厳の瀧からドブンと遠い〳〵、十萬億土とやらに辨當持參して、黄泉の客となつて旅行する其の心事の可憐なる、眞に一掬同情の涙なくして可ならんやだ。夫れを厭世家だと一概に鼻の先で笑つて葬つて終ふ、斯樣な情知らずの奴こそ可哀想でもあり不愍でもあり、且は氣の毒でもある。兎角世の中といふ奴は、毒を指して藥だと誨へ、藥を以て毒と教ふ、毒藥變じて藥と成つた者はまだしも、藥だと思惟して毒を飮んだ者こそ災難だ、黒い頭の動物は一齊に拍手して、計略成れりと快哉を叫ぶ、何と不公平の世の中ではないか。

# 天鼓の響き

## 天下の義人也

宇都宮光盥生

吾が國では古來より君に忠、親に孝なる者素より尠くはない。亦國事に殉した忠臣義士も決して少くはない。否斗を以て計るほど澤山ある。けれども自分よりも卑しい弱者の爲に、殆ど一身を捧げてまでも奮鬪犧牲の生涯を送つた活ける人道の戰士に至つては、僅かに木內宗吾と、大鹽中齋とを記憶するのみである。そして近世に於ては「あゝ谷中村の亡びるのは日本帝國の一部が亡びるのだ」と地團駄を踏んで叫んだ義人田中正造翁あるを得て、吾等をして少しく心強く思はしめたのであつた。實に翁は曾つて口に神を說かず佛を語らざるも、靈の人にして肉の人ではなかつた、全き眞人である。「利根渡良瀬沿岸地も日本帝國の領土である、鑛毒被害民も陛下の赤子である」とは終始一貫して、彼が愛國愛人の信仰個條であつたらしい。彼の眼には名もなき草澤の一匹夫の痛苦も、天下國家の痛苦として感じたのである。恰かもキリストが「この最と少き者の一人の亡ぶるは天父の旨にあらず」と云つた言によく似通つて居るではないか。而して彼が長き七十三年間の生涯に渉りて無告の窮民のために富豪の橫暴と當局の苛政とに反抗して人道的義戰を續け、終に倒れたのは眞に眠れる吾が日本に取りてはよい睡氣醒しである。あゝされど翁逝き今や亡し、義人亡びて義人なし、世は再び暗黑に歸つた。

されど突如吾が「廓清」は茲に隱れたる義人の存在を吾等に告げられた、それは外でもない、彼の洲崎川崎兩遊廓に於ける醜類暴行事件のために、幾多の犧牲を拂はれた救世軍の伊藤富士雄君である。斯く申せば近眼的なる世人は頭から馬鹿にし切つて「フヽン何んだつまらぬ救世軍……」と冷嘲するであらう。其れもそのはづ社會の木鐸を以て任ずる都下の新聞紙すらも、此人道上の由々敷事件に對して僅かに數行の社會記事に記載したかしない位いだから、乍併吾等は信ず、伊藤君は救世軍の一低級士官であつて、又其の運動方面に於ても宗吾や中齋や正造の如き鑄型に嵌まるべき者では斷じてない。されど彼が既に捨られた何人も顧る者なき無告の娼妓階級のために、斷も身命を賭して奮鬪せらるゝは決して前者に優るとも劣ないのである。

世には思想の講壇に高く立ちて、憲政擁護を叫ぶ政治家もあらう、又衆生濟度を標榜して佛陀の慈悲を說き、或は基督の愛を辯ずる所謂宗教屋も澤山あらう。如何に彼等の手を振り首を動かしつゝ福音を說き衆生濟度を叫ぶも、歸する所講壇上より一歩も動くことの出來ぬ慈悲や、愛の立往生に過ぎない、却つて自ら社會人生の實問題に遠かり行きつゝあるの時、事は卑近の如くなれど吾等は救世軍の伊藤大尉の娼妓救濟運動に對して、大に尊敬愛慕の念に堪えぬ。兎もあれ大尉は現代に於ける日本の義人である、そして序に天下の青年に申したいのは、卿等は世俗的處世難に囚はるなく、斯かる純潔なる大野心を以て奮鬪せよといふ事である。

## 北海道の風教

北海道　田中正實

小生は昨今其顧問たる人が、內閣總理たるの時に當りて、我が廓清會は如何なる活動を爲し如何程の實績を、擧げつゝあるつを知る能はずして暮し居り候。過般專任內相問題起りし際、人或は我廓清會々長島田氏を以て此に擬するあり、小生は之ぞ公娼問題の根本的解決を見るべき千載一遇の好機到來するものと、私かに其實現をされん事を祈願致居候ひしに、事情未だ爰に到らずして止ぬるは、以て一恨事ならずとせず候。

公娼廢止の目的を貫徹する上に於て、殆んど唯一の實行的主腦たる救世軍は、歐洲の大亂勃發以來從來其の方面より補給せられつゝありし活動資杜絕し、爲めに凡ての事業の上に甚大なる打擊を蒙りつゝある由なりしが、揣らずも天恩の優渥なる三千金の內帑を下し賜はるありしは、甚だ恐懼に絕へざる言には候へけれども、實際其の金圓自らが金圓としての働らきをなす事に於てよりも、以てともすれば其虞無之を保せざり

し一部世間の救世軍に對する、幾程の誤解猜疑を釋然氷解せしめ、且亦直接間接に物質的應援を相當に社會より要請するに際して、無上の有力なる保證たるべき意味に於て、何とも譬へ難きほど、切なる感涙の催さるゝ欣喜すべき一大福音とこそ存じ候へ。

却說、當北海道に於ける公娼並に私娼の實情に就いては未だ精査の機を得ず候へ共、一、二知る處を御報告可上申候。

昨夏、函館新聞に公娼廢止は主義として結構なれども、唯花柳病に對する策の上より、大に稽ふべき餘地あるやに考ふるを得といふ如き意味の處見が何やら遊廓に關する記事に附帶して記載をされあるを見、其記者が未だ此點に就いて十分なる研究を重ねざるが爲めに、斯る杞憂に囚はれて言正鵠を失する事一歩なるを、聊か慨歎したる事有之候ひき。亦頃日の新聞に依れば、函館遊廓に於ては舊臘とかより其土地の警察署長の新案に基きて、一等七十錢二本、五十錢三本、三十錢（多少數字の誤謬あるやも知れねど）と云ふ區分均一制を實施したる結果に徵すれば、新聞の所謂遊興高‖遊興費‖なるものと遊興の人間數も共に、餘程增加の現象を見たるとの事に御座候、尙同新聞は之に對して「該制度を實施せば人員に於て增加するも上り高に於ては、却而減少すべきを豫期したるに」とか、「同署長け私娼の跋扈は之を嚴重に取締る方針の由なり」とか記載致居候。

小樽の遊廓も可成の樣子なるらしいけれど、詳細は承知仕らず、札幌區に至りては市中にても要地と稱すべき目拔の場所に堂々と檐を聯られ居る有樣にて、心ある人士の顰蹙を禁ぜざるところとか聞き居候。旭川の遊廓に就いては同區の繁昌に趨くに伴れて、從來は偏位たりしものも次第に中心に移り行くの勢と相成、從而風教上一層顧慮すべきに至りしを以て、他へ移轉を强制せらるゝ運命となりたるに、今日札幌郡部より衆議院議員の候補に立ちたる五十嵐とやら申候成金の如きは、極力運動して其延期に成功したりとの沙汰に御座候。何んとや評し候べき？釧路と共に將來區制實施ともなるべき漁港として望多き留萌町に於ても、遊廓の位地は次第に中心に近づき行き誠に十年計劃なる築港完成の曉には、最も目拔の通りと相成る可きを以て矢張早晩屆の外方へ移轉をしめざる可からざるものと申合るも御座候、家作一般に甚だ粗造なる留萌に於て、最も宏大なる建物と申候へば、本年より工事に着手すべき支廳はいざ知らず、目下の處にては先づ指を遊廓に屈せざるを得ざる實況に御座候。本土に比して開拓尙久しからざる此北海道にては私娼も亦賭博と共に或程度迄著しく目立つものに有之候、元來北海道には蕎麥屋甚だ多く、而も其の大多數は皆私娼窟たるは尙淺草の銘酒店と類を等しうするものにて候公娼私娼の尠からざる必然の結果として、花柳病も中々多き樣子に見受けられ申候。要するに「廓清」を實現し得る日は內地よりと更らに遙かなるべくと被存申候次第に御座候。東京市に於ては淺草の私娼に持て餘し寧ろ公認せんかなどゝの說行はるゝに至りし由、誠に以ての外言語同斷の陋態と遙かに憤慨致在候、先日の萬朝報に於て、之に關する峻嚴なる駁論を見たりしは又以て些か溜飮を下ぐる處に御座候。

尙雜多なる事項多く有之候へ共、今回は此位に止むべく候、雜誌御送附有之次第會費納入仕るべく、社會人道の爲め國家の面目の爲めとし思へば、小生は假令如何程窮迫致候ても一年六十錢の會費のみは、死する迄其の義務を缺き度く無きものと存じ居候。終りに臨み殊に我が山室軍平先生の、御健鬪が幾久しく神の御名の下に繼續せられて以て吾人薄志弱行の徒を、鞭撻し給はん事を呉々祈り上げ候。草々。

第二信、前便と御參照のため本朝の當地新聞紙上に出でたる記事御覽に供し候。

## ◉私娼檢擧總計

△檢擧の尤も多いは函館

△梅毒淋病の多いは小樽

道廳保安課調查に係る大正三年度に於ける、本道各地の私娼（藝妓、酌婦其他）の檢擧せられたる總數は七百十八人なり、其の內娼妓を廢業したるもの四人ありたり、而して其內檢黴の結果、有毒者百六十二人ありしが就れも梅毒淋病者大多數を占め居れり。尙檢擧地名別を示せば

札幌十四、小樽百四十八、函館百九十五、旭川十五の四區を初めとして、池田の廿九、登川十三、倶知安十八、網走十八、宗谷十九、室蘭十四、岩見澤二十等主なるものなり。

又月別を見るに九月に最も多く、次いで八月十二月といふ順序なるが、翻つて前大正二年度の檢擧總數七百八十四人に比較するに六十六人、又有毒者に七十六名の減少を示せり。尙私娼の三年度に於ける百人に付有毒者の平均を見るに三十一人〇九厘五毛に該當し、四區の比例を擧ぐれば、

小樽は娼妓七人七分二厘、私娼七十五人七分三厘、札幌、娼妓二人六分一厘、私娼三十七人、函館娼妓三人〇六厘、私娼二十二人、旭川娼妓二人三分、私娼四十三人、小樽は最も其の惡毒の猛烈なるを示す、娼妓の約十倍なりと、

# 北海道の遊廓

北海道 河田謙吉

（大正二年十二月末調査）

| 署名 | 名稱 | 位置 | 戸數 | 娼妓數 |
|---|---|---|---|---|
| 札幌 | 薄野遊廓 | 札幌區薄野 | 三三 | 三一三 |
| 江別 | 江別同 | 札幌郡江別村字江別町 | 二 | 一二 |
| 石狩 | 石狩同 | 石狩郡石狩町字辨天町 | 三 | 一五 |
| 濱益 | 濱益同 | 濱益郡濱益村字茂生 | 二 | 三 |
| 函館 | 函館同 | 函館區大森町 | 六一 | 四二二 |
| 森 | 內浦同 | 茅部郡森村字森 | 四 | 二七、 |
| 福山 | 湯殿澤同 | 松前郡福山町字湯殿澤 | 二 | 七 |
| 江差 | 新地町同 | 檜山郡江差町字新地 | 五 | 二六 |
| 瀬棚 | 最內同 | 瀬棚郡瀬棚村字最內 | 七 | 二六 |
| 壽都 | 壽都同 | 壽都郡壽都町字新榮町 | 五 | 二五 |
| 壽都 | 潮路同 | 歌棄郡潮路村潮路 | 二 | 五 |
| 磯谷 | 磯谷同 | 磯谷郡磯谷村字島古丹 | 二 | 六 |
| 岩內 | 岩內同 | 同岩內郡岩內町鷹臺町 | 六 | 四〇 |
| 同 | 神惠內同 | 古宇郡神惠內村字神惠內 | 二 | 五 |
| 小樽 | 北廓（手宮） | 小樽區手宮裡町 | 二二 | 一三五 |
| 同 | 南廓（奥澤） | 小樽區柳町 | 一六 | 一一六 |
| 余市 | 余市遊廓 | 余市郡余市町字仲町 | 三 | 一三 |
| 古平 | 古平同 | 古平郡古平町字新地町 | 一 | 五 |
| 同 | 美國同 | 美國郡美國町字船澗 | 二 | 六 |
| 岩見澤 | 岩見澤同 | 空知郡岩見澤町 | 四 | 二〇 |
| 瀧川 | 瀧川同 | 瀧川郡瀧川町 | 六 | 三三 |
| 瀧川 | 歌志內遊廓 | 歌志內郡歌志內村 | 四 | 一三 |
| 深川 | 深川同 | 雨龍郡深川村 | 二 | 一〇 |
| 旭川 | 中島同 | 上川郡永山村字中島 | 二五 | 一九〇 |
| 同 | 曙同 | 曙郡旭川町曙通 | 一二 | 一〇一 |
| 增毛 | 增毛同 | 增毛郡增毛町字島中 | 三 | 一〇 |
| 留萠 | 留萠同 | 留萠郡留萠町 | 八 | 四五 |
| 羽幌 | 羽幌同 | 若米郡羽幌村 | 三 | 一二 |
| 室蘭 | 幕西同 | 室蘭郡室蘭町 | 一六 | 九七 |
| 伊達 | 霧見岡同 | 虻田郡虻田村 | 一 | 三 |
| 若小牧 | 若小牧同 | 勇拂郡若小牧村 | 五 | 二二 |
| 浦河 | 浦河同 | 浦河郡浦河町字浦河 | 三 | 一一 |
| 同 | 幌泉同 | 幌泉郡幌泉村 | 三 | 一三 |
| 下々方 | 下々方同 | 靜內郡靜內村字下々方 | 一 | 一四 |
| 帶廣 | 帶廣同 | 河西郡帶廣町 | 六 | 三四 |
| 茂寄 | 茂寄同 | 廣尾郡茂寄村茂寄 | 四 | 一〇 |
| 釧路 | 釧路同 | 釧路郡釧路町字米町 | 一四 | 九七 |
| 霧多布 | 霧多布同 | 厚岸郡濱中村霧多布 | 三 | 五 |
| 厚岸 | 厚岸同 | 厚岸郡厚岸町 | 四 | 二九 |
| 根室 | 根室同 | 根室郡根室町 | 二一 | 一七七 |
| 根室 | 別海同 | 野付郡別海村 | 一 | 一 |
| 標津 | 標津同 | 標津郡標津村 | 一 | 四 |
| 國後 | 泊同 | 國後郡泊村字泊 | 一 | 二 |
| 紗那 | 紗那同 | 紗那郡紗那村 | 二 | 四 |
| 同 | 留別同 | 留別郡留別村 | 一 | 四 |
| 網走 | 網走同 | 網走郡網走町 | 六 | 四八 |
| 紋別 | 紋別同 | 紋別郡紋別村 | 一 | 五 |
| 宗谷 | 稚內同 | 宗谷郡稚內町稚內 | 一 | 八 |
| 枝幸 | 枝幸同 | 枝幸郡枝幸村 | 五 | 三一 |
| 鬼脇 | 鬼脇同 | 利尻郡鬼脇村 | 二 | 一 |
| 同 | 鴛泊同 | 鴛泊郡鴛泊村 | 三 | 八 |
| 香深 | 香深同 | 禮文郡香深村香深 | 二 | 七 |
| 同 | 船泊同 | 船泊郡船泊村字船泊 | 二 | 一一 |
| 合計 | 五六 | | 三五五 | 二、二七四人 |

# 東京市民の爲めに惜む

神田 中里正次郎

余は元より高木辯護士其人の人格は知らなかつた。否、寧ろもう少し高潔の人の如くに思つて居つた一人である、然るに實際に立入つて稍其の人を知るに及んで一驚を吃せざるを得なかつた。といふのは去る洲崎事件判決記事（廓清五卷ノ二號）を見、娼妓自廢奬勵は營業妨害であると云ふの言に接して、吾人は彼が尙東都第一流の辯護士の皮を着てゐる事に不思議とせざるを得なかつた。而かも奇怪は之れに止まらず、人道の義戰に負傷したる尊い戰士に惡罵を加へ、之れを敵として只管醜業者に媚びんとする此の人格下劣唾棄すべき醜漢を、今次の選擧に於いて東京市民の代表者として帝國議會に送る事となつたのは、何んといふ情ない事であらうか、政友會中の人格者であるとされた鵜澤博士が、本誌によりて其假面をひんむかれ、芽出度落選せられた事に、痛快を感ぜずに居られない我等は、退いて首都の代議士として高木輩の無識無恥なる卑劣漢を當選せしめた事に、痛憤を禁ぜずには居られないではないか。世界一の吉原を有して之を恥づる事を知らない東京市民としては、之れも止む事を得ないであらう。吾人廓清會々員たるものゝ責任の、高木氏の當選と共に愈々重い事を同志と共に考へて奮起したいと思ふて、一言を尊い紙上に述ぶる事とした。

# 公娼制度を全廢すべし

山形 松田秀作

昨年末福島縣平町に遊べる折傳聞せる一話を記さん

頃は昨年六月の末つかた、平驛の西方二丁許りなる、同町古鍛冶町杉の澤と稱する所にて一青年轢死せる椿事ありたり、警官出張取調べたるに懷中に一封の書あ

り、曰く「我一娼妓の爲に身をあやまり、今日此所に於て死を決す、世人我を前車と思ひ、後車の誡めとせよ」と、其の眞相を聞くに此の青年は佐藤武夫（假名）とて、或商店の番頭に住み込み、忠實々々しく立働き居たるにぞ、主人も目をかけ末には娘をめあはせ店をも任かせんものと思ひ居たりき。然るに彼は一度登樓したるに、初心なる程斯道には迷ひ易き世の慣ひ、娼妓の手練手管にのせられて、娼妓の姿目先にちらつき忘れんとして忘るゝ能はず、主人の目を忍びては登樓し、度重なるにつれて己れの持合せのみにては間に合はず、友人よりは借財し、果ては店のものを持ち出しては入質又は賣却し、尙足らずして主人の印を盜み出入先より掛金を集めては消費し、其額實に數百圓の多きに上りたり。かくて愈〻決算期の間際に至り其消費せる事の發覺せん事を恐れ、今更前非を悔ゆれ共後悔先に立たず、如何ともせん術もなくなくに、今は早之迄と覺悟を極め、之れ迄の罪の條々を書き綴り、己が机の引出しに入れ置き前記の處にて轢死を遂げたるなりき。

記せば數行の事ながら、這裡に無限の敎訓の含まれ居れる事を觀ざる可からず、嗚呼、無慘なるかな。若し世に公娼なくんばかゝる悲劇の幕は演ぜられざりしならんを？一娼妓の爲に死す我を前車と思への一句に至りては、誰か一滴の涙を注がざるを得んや。嗚呼血あり涙ある者此青年を不憫と思はざるものありや、若青樓に足を入れざりしならば、人には某商店の主として末迄幸福に暮したらんに、恐るべきものは青樓なり憎むべきは此實直なる青年をして墮落の淵におとし入れ、かゝる罪を犯さしめ、あたら將來有望なる一青年を一夜の嵐に散らさしめたる彼公娼なり、然れ共公娼又其罪を問ふべからず、其の責を負ふべきは彼を正業として許可し置く公娼制度にあり。

かつて多摩川上流に身を投じたる一學生も娼妓の爲なりと聞く、只此一事に止まらず藝娼妓の爲に死に至るもの世に幾何なるや。全廢すべきは公娼制度ならずや、我は寸時も早く公娼制度の破壞せられ廓清會の成功を祈つて止まぬのである。

會員諸兄姉よ振つて本會の爲めに御盡力あらせられん事を乞ふ。

# 自由廢業を誤解する勿れ

麻布青年會　曾根正藏

人はパンのみにて生くる者に非ず。

自由廢業は娼妓に對して救世軍の獨占的事業であるやう一般は思ふて、遠方の火事の如く、我不關焉と濟まし込んで居らるゝが、世道人心の裨益といふ事に就ては極めて幼稚な現代としては、己れ一個の幸福にのみ吸々としてゐるのであるから、これも止むを得ぬ事ではあらうが、誠に殘念な譯である。

廢業の自由といふ事を、救世軍が公許の營業に對する防害をなすものと解するが如き事の、田舍の警察官にまゝあるは甚だ遺憾の事であつて、總て廢業の自由といふ事は、人類の最も尊ぶ可き考で、娼妓のみの限りではない、惡質のもの、改善策として取るべき方法の動かす可からざるものである。

聖書に『善き事と知りて爲さゞるは罪なり』と云ふ事があるが、自己が之れを惡い事であると氣がついたならば、直ちに改善す可きが人たるの道で、而して此善を爲さんとする行爲に對して何人か其自由を奪ひ去る事を得やうや、法律が既に明白に之れを認めてゐる金錢の貸借の附隨してゐる事の如きは、些々たる一問題であるのに、之れによつて常に娼妓の廢業の自由の妨げらるゝは、本末輕重を知らぬにも程のある事と深慨に堪へない次第である。

吾人はまた娼妓を憫れんで廢業を勸めて居るのみならず、其下に働く妓夫の如きも第一着に廢業させればならぬ性質のものとして勸告したいのである。其他樓主は云ふ迄もないが之れに關聯せる一味同臭の連中を悉く廓淸しなければならぬとする者であるから、之れは救世軍や廓淸會にのみ一任すべき事でなく、眞に國を憂ひ世を愛する紳士淑女たる者は、何人も我等に後援せなければならぬ筈のものである。

然るに混沌たる現代、汚穢なる今日は斯かる事は匹夫野人の致す處で、君子は危きに近寄らずとするはまだしも、悲しむべきは迫害亂暴を敢てする徒輩に與して、却つて正義の爲めに十字架を負ふて犧牲となりたる者に對して強て之に侮辱を加へんとするの徒輩あり悲しむに堪へたり。而も此輩をして神聖なる國家の議政壇上に立たしむるに至つては、聖代の恨事玆に至つて極まる。

併しながら當局の悉くが該問題を小事なりと蔑視し無限に放任するが如き暗愚揃ひにも非ざる可ければ、近々兩者接近し來つて、遊廓全廢の凱歌を奏する秋の必ずしも永遠の將來ならざるべきを信じ、吾人は前途に光明を懷いて奮鬪しつゝある者である。

# 熱血紅涙

■安井久代姉（大阪）　色も香も淺き一賤女より初めて、おこがましくも文呈し参らせ候。かねて御芳名は承りをり候ものから、過日青年會館にて御熱心なる御說拜聽致し、一入御慕しさの堪へ難くて、かくは一書呈し度拙き筆をも省みず筆とり申候。私事は天滿教會の末席に連り○○小學校に教鞭をとり居るいと少さき者に有之候、廓清會の事かねて承知仕り候ひしが、恥しながら今日迄入會致さず候ひき、さるを昨夜の御熱心なる御勸めにより今更の様に深く感ぜられ、改めて神様の御前に從來の冷淡を悔い、尙この尊き御事業の爲めに切に祈る新らしき信仰と喜を與へられ候事感謝に堪え不申候。止みがたき切なる願より學校の同僚の人達にもすゝめ候處、幸にも廿一名の贊成入會者を得、之亦感謝に御座候。

これより逢ふ人毎にすゝめ仕るべく、御雜誌の尊き記事を一人にても多く與へ少しなりとも淸き空氣を家庭に灑ぎたきものと心組居り居申候、この尊きみわざの爲に專ら御働き遊ばす先生の尊き御身の上に、神様の厚き御惠、いやが上にも澤にと祈り上げ候。同じ神のふところにといふ心につぶされて、おこがましくも筆とり長らしう拙き事書きつられ候。何卒御判讀被下このいと小さき子が、小さき願、祈、思し知りたまはらばこよなき幸に御座候。

■三井國助君（長野）　廓清二月號加藤博士の教育者に與ふるの文は實以て痛快適切双手を擧げて贊成仕候、乍去全國敎萬の敎育者に殘らず發送するは不可能の事と推察致し候。就ては小生の切望するには拜南佐久郡内全體の中小學敎員全部へ御配布を乞ひ度候、此儀御承諾被下候へば其の氏名調査の上御通知可仕候。

■小林孝造君（大島）　貴會益々人道の爲め活動せらるゝ甚に大慶之れに過ぎず候、小生は今回當地に來任、最も快心に堪へざるは、藝娼妓の無之事にて、邦家をして、如斯ならしめたきは、小生の切なる希望にて御座候、一層人道の爲め盡されん事を切望致候。

■南長義君佐土玉藏君（三笠艦）　貴會御繁盛の段奉大賀候、毎號痛快なる記事のみ連載され、實に社會の爲人道のため祝せざるを得ず候。冀くは主張の貫徹と目的の遂行の爲めに愈々御盡力の程希望に堪へず候

■村田贄君（京都）　小生は、京都中央教會（メソヂスト）會員にして、貴會の御趣旨を贊成し、入會し雜誌廓淸の購讀者に有之候。就ては小生は出來得る限り知人朋友に入會を勸誘致居候て、今一人漸く入會し希望者を得候に付御紹介致候故、入會御許可被下度候。

扨而甚だ差出がましき事に候が、貴會雜誌廓淸に雜誌女子敎育の如く貴會の目的（本領とか）規則入會手續等御掲載に相成候ては如何のものに候や、大抵の雜誌は何かの會の機關雜誌に候爲に、其會への入會等上記し斯の如き箇條を掲げ居候、小生も會員には候も如何にして入會すべきか雜誌に掲載無之爲困り候、其の爲に貴下を煩はしし次第に候、先は御願迄。

■井澤淸君（大阪）　寒氣の折柄に候へ共、愈々御壯健爲國家、御盡力のほど、誠に々々恐悅に不堪候、昨晩は青年會館に於て、御熱誠なる御演舌拜聽致候、而して泣き申候。忌憚なく申さば甚督致は、大嫌ひに候故、行くまいかとは存じ候へ共、豫て貴下の御熱誠は友人より承知致し、通り懸りに參り處候、言々句々肺肝より出る、貴下の熱力に壓倒され申候。熱心ほど恐ろしきものは無之、近き將來に於而、遂に貴下の御力によりて、廓淸の實を擧ぐることを得べきは疑を挾むの餘地無之候。失禮を不顧一言いたし御禮申述候。

■江守昭君（府下）　御會益御隆盛之趣、國家の爲人道の爲、慶賀の至に不堪候、扨而小生事、本來御會に熱心に贊成致居る一人にして、及ばずながら、間接に至る所に於て御會の趣意を鼓吹致し居候。

■太田彌三郎君（山形）　又々悲壯なる人道戰山田、伊藤兩閣下の義勇戰……嗚呼實に喩へんに物なく只々感淚に咽ぶの外之れ無候、其に引替私の如きも名譽ある本會の會員たる運きにあり乍ら、只有名無實にて偶人にも如かざるものにて候。左れど會員たる以上は常々夢寐の間も本會の爲に微力を盡さんと存じ候へ共、元より智能淺薄微弱とて目立つ事も能はず候が、私の考には先づ原動力たる會員を増すに如くはなしと決し鴻恩の九牛一毛たりとも報ぜんが爲、種々勸誘致し別紙申込書の通り少數乍ら入會を導き申候間宜敷願上候。

扨茲に入會勸誘中に於ける所感之有駄言鳴許がましき事乍ら私の小さきハートに感じ候故に神聖なる貴會に訴へる次第に御座候。現代青年輩の墮落するは理無きにあらずと存ぜられ候は修養の師たる書籍中卑猥極まるものゝ蔓出に候、喩へば「浮世」及び「色」の如き雜誌にて新聞三面記事を針小棒大に書きつられ、青年好奇の心を吸引し利を貪る奸商の跋扈にて候、かくの如き無益有害なる書籍は比較的普及力の速かにて、大方の讀書家の書棚内に見受くるは、珍らしからぬ事にて不思議に感ぜられ候。

嗚呼白絲時代の私共青年を指南すべき任ある書籍中敎度發賣禁止の厄害を有する師あるに於てをや、該子弟の墮落も確たる理ありと存ぜられ候、此際廓淸の任を負ふ貴會として御盡力あらせられ、一日も早く此等の散存せる卑猥書籍に痛眼を加へ以て社會より一掃せられん事を祈上候。

大正四年四月十四日納本　一部定價金六錢
大正四年四月十五日發行（毎月一回十五日發行）
神田區今川小路一丁目三番地
編輯兼發行人　伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地
印刷人　小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地
印刷所　丸利印刷所
神田區美土代町丁三目三番地
發行所　廓清發行所

Education authorities can also bring their influence to bear upon other public bodies to provide those agencies which tend to stimulate and cultivate a taste for the higher and better things in life, such as high-class concerts, organ recitals, lectures, talks on art galleries, and upon historical records in the museums, on poetry and the drama in our Libraries. A taste for and cultured appreciation of music, poetry, art, and history, will furnish a powerful antidote to the seductive influences which tend to lead young people astray at the age when their characters are plastic and impressionable. An interesting experiment which has recently met with much success in some of our cities has been to send from the public libraries good books in bulk to factories and workshops to be distributed amongst the employees at their work, they appointing an honorary librarian, and the employers being responsible for missing or destroyed books.

But, in considering the agencies and influences an work for the reprssion of crime, the instruction of ignorance, and the formation of character surely the most powerful of all is the influence brought to bear upon the community by men and women who, by their own conduct and character, set a high standard of living before their fellow-citizens. Subtle in its working, and invisible in its action, the influence exerted by such men and women must ever be the greatest force for the promotion of good and elimination of evil, for the ennoblement of character, the raising to a higher plane of our public life, and shaping the destiny of the race.

# TRAINING OF THE WILL.

By Prof. F. W. Forster.

I should characterise it as a dangerous error to suppose that the sexual wildness and hyper-irritation of modern youth are results of imperfect instruction upon the sexual question. The real cause lies in the terrible decline in character-formation and the general tendency of the age to riotous sexual enjoyment. If the young are not trained to a higher conception of life, instruction will at most make them curious about what it conceals. Mere enlightenment affords no defence if the force of the lower impulses is not counteracted by a strong gymnastic of the *will*. It is a thousand times more important that the will should be prepared for the coming of the sexual derire than that the understanding should be prepared for it; the protection of youth against sexual dangers is a question of *strength* rather than a question of *knowledge*. It is said, indeed, and truly said, that pedagogic enlightenment must thwart unclean enlightenment got from the streets; it is forgotten, however, that the sexual impulse is itself, as it were, a street boy, picking out from enlightenment, however good it may be, just what stimulates and excites Accordingly, even the best enlightenment must lead to an increase of sexual irritability if lust is not attacked beforehand in quite another way. The best sexual pedagogic is that which tells directly of sexual things only the barest, most necessary *minimum*; but which, on the other hand' understands how to produce all those forces and habits of character which enable the young man to assume of himself the true intellectual attitude towards awakening sexual desires. The best sexual education is an education of all the faculties.



Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

# THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. V April. 1915 No. 4.

## CONTENTS.

Purity Notes..................................H. Ito.
The Result of the General Election and Our Responsibilily...............Prof. Abe.
The Accession Ceremony and Our Purity Movement in Kyōto........Prof. Harada.
The Purity Movement in Miyazaki Prefecture......................T. Nishiuchi.
The Mistaken Institution of the Publicity of Prostitution..................Dr. Uesugi.
From the Literature of the Liceneed Prostitute to that of the the Private One... ........................................Dr. Kōda.
The Licenced Prostitute from the Psycological porist of View.........Dr. Fukurai.
The Actual Monogamy.........Z. Horikoshi.
The Spring of the Domestic Happiness. ................................Col. Yamamuro.
The Study on the Deserted Villages and the Demoralizing Women.......T. Soda.
The Mystery of the Kawasaki Affair Produced Another Mystery.......Editor.
Atrocity of the Police at Nakano. ......................................Y. Tateishi.
The House of the Spring............S. Ōishi.
Our Blood boils........................Members.
The Sound of the Heavenly Drum......... ..........................................Members.

## EDUCATION OF YOUTH.

By W. C. Dawson. J. P.

Education, it should not be necessary to emphasise, is not merely a system for the imparting of knowledge. A man is not wise or virtuous according to the extent of his knowledge, but according to the right uses, designed to worthy ends, which he applies his knowledge—the strength of his character depends upon the control of his will and emotions, and the nobility of the ideals which enter into the very fibre of his being, and furnish the driving power of his life.

The teaching of sex hygiene is an important subject, but boys need not merely sex knowledge, but such training as will enable them to control those rebellious sex impulses which, unchecked, will inevitably bring about moral and social disaster. Girls must be trained not merely to know, but to resist, the first steps leading to demoralisation and degradation. Primarily it is the duty of the parents, to give proper information in an appropriate manner at a suitable age. The tragedy of the situation is that those children who most need instruction usually have parents least fitted to give it. The average class teacher is by temperament and training unsuited to give such instruction; but to make the subject one for special treatment must make the question unnatural and give it undesirable prominence. The solution is, I think, to be found in giving instruction by means of specially-trained teachers, as part of the course in physiology and general hygiene, in classes similar to those now formed where boys are taught such subjects as wood-work and metal work, and girls are taught cookery, laundry work, and domestic sciecee.



Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY